

平成 29 年度 本部事業計画書 (案)

社会福祉法人 ささゆり会

平成 29 年度は、4 月から社会福祉法が改正され、大きな転換期を迎える年でありま
す。また、処遇加算も 4 月から 1.14%引き上げられます。これからは、運営の透明性の
確保と柔軟に対応した法人が生き残っていくだろう。それに伴い、各々の事業所でも同
じことが言えるだろう。姫路市の平成 29 年度高齢者福祉施設の整備促進事業に採択さ
れ、姫路市西庄にサテライト型地域密着型特別養護老人ホームサンライフ西庄を平成
30 年 4 月開設に向けて準備をします。

本年度もベトナムからの EPA(経済連携協定)の受け入れを行います。昨年度は、2 名
受け入れをしました。本年度は昨年度以上に EPA 候補生の受け入れが多くなる予定です。
EPA 候補生の日本語及び介護福祉士の資格取得勉強にも力を入れます。

介護現場では、介護の見える化を進めていきます。そして、個別ケアにより利用者様
に沿ったケアを目指して行きます。また、仕事効率の向上を目指し、生産性を上げます。
改めて、業務の見直しを行い、働き方を見直す。今までの仕事方法を見直すことで、職
場環境を整え、改善に向けた取り組みを行う。そして、介護の質を高め、利用者様、家
族様から安心感・信頼感を持っていただくために接遇の向上を推進します。

介護看護人材の確保は、年々難しくなっています。法人で採用担当専任を配置し人材
の確保を進めていきます。今までの採用方法では、困難が予想されますので、新しい採
用方法も取り入れて行きます。

運営スローガン：『活力ある職場を提供し、生産性を上げる』

I. 本年度の重点課題

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
 - ・西庄の施設開設の準備
 - ・サンライフ土山居宅介護支援事業所の開設準備
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
 - ・ICT 導入による業務改善
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
 - ・新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
 - ・EPA(経済連携協定)の研修生の採用と育成

II. 定例会議

ア. 理事会

当法人の最高決議機関として、事業報告・決算の承認・事業計画・予算の承認その他重要事項決定のため、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第1回現行理事会	1. 事業報告・決算報告の承認 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他諸規定の検討	平成29年6月
第2回新理事会	1. 理事長・副理事長選任	
第3回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の経営内容について	平成29年8月
第4回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所のサービス内容について	平成29年10月
第5回理事会	1. 県、市による指導監査の是正監査 2. 上半期事業推進報告と課題の検討 3. その他諸規定の検討	平成29年12月
第6回理事会	1. 経営戦略について 2. 各事業所の人材確保について	平成30年2月
第7回理事会	1. 事業計画書 2. 法人組織・諸規定の検討、その他	平成30年3月

イ. 監事会

事業の執行状況及び決算についての報告と、理事会に意見を述べるため以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	
第1回監事会	1. 前期事業報告・決算の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施課題について 3. その他運営上の課題について	平成29年6月
第2回監事会	1. 上半期事業推進状況の監査 2. 事業計画に基づく諸事業の実施状況と課題 3. その他施設運営上の課題について	平成29年12月

ウ. 評議員会

当法人の役員の選任と、法人運営の基本ルール・体制の決定と事後的な監督を行う機関として位置づけ、必置の議決機関として以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第1回評議委員会	1. 充実残高計画の承認 2. 平成28年度計算書類の承認 3. 定款施行細則の承認	平成29年6月
第2回評議委員会	1. 事業計画・予算案の承認 2. 法人組織・諸規程の承認、その他	平成30年3月

Ⅲ. 介護保険サービス推進委員会

利用者様の立場に立った介護と生活の質の向上を目指し、以下の会議を行う。

会 議 名	内 容	時 期
第1回推進委員会	1. 上半期諸事業の取組み結果と課題について 2. 虐待防止研修の推進状況について	平成29年12月
第2回推進委員会	1. 平成30年度事業計画御立・魚崎事業所の 摺り合わせ 2. 活力ある職場創り推進状況について	平成30年3月

以上

平成29年度 特別養護老人ホームサンライフ御立

事業計画書（案）

平成29年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもとに活力ある職場作りへアンケートの実施や設備の充実により職員の負担軽減を図ると共に魅力あるサービス提供が出来るよう接遇を含めたサービスの改善を図る。また、施設での看取り介護の見直しを行い、入居者様・家族様の満足される看取りを目指していく。

I. 活力ある職場環境作り

① 職員へのアンケートを実施

職員に対してアンケートを実施し、それを基に職員の負担軽減及び提案を検討し活力ある職場作りに繋げていきたい。

② 接遇・身だしなみを整える

「身だしなみ」や「言葉使い」の意識づけをするために、マニュアル・チェック表の作成を行い、それを基にお互いに注意し合える職場の環境を作りに努める。

③ 居室担当等の強化

居室担当・担当委員・担当設備に関しては担当者が責任を持ち、業務にあたるように意識づけの強化を行うと共に居室内の環境整備においても、リーダーによるチェックを月に一度行う。

④ レクリエーションの強化

現在、レクリエーションについて職員の意識が少ない状況である為、毎週水・日曜日のPM2:00~PM2:30をレクリエーション提供日と決め、日誌に内容・参加者を記載し報告し、実施の徹底と入居者様の充実した日常を支援できるよう努めていきたい。

II. ケアプラン作成の簡略化

① ケアプラン作成の負担軽減

ケアプラン作成において職員の負担になっている事やサービスが実施、徹底が出来ていない状況にあるため、入居者様1人に対し今後はニーズ及びサービス内容について、家族様に実施して頂く項目とその他2項目に絞って実施、徹底していく。また、変更後のケアプランはファイルを各班で作成し、重要な内容には赤線を引き、周知することでプラン実施についての徹底を図る。

② ケアプランチェック体制

ケアプランチェック体制を強化し、ケアリーダーだけでなく次期リーダー候補の職員がチェックする事により指導力の向上を目指し、リーダー等の移動時の対応やケアリーダーの負担軽減を行う。

III. 安全な職場環境への取組み

- ① 腰痛予防のため、新たにリフト2台・マッスルスーツ2着・スタンドトランスファー2台を導入した事で、更なる福祉用具の活用を行うと共に施設全体で介護負担の軽減及び腰痛予防対策を推進し安全な職場環境作りを目指す。
- ② 職員アンケートにより腰痛を持つ職員の割合を出し、改善案の提案・対策を実施を、継続するシステムを構築することで、職員に安心な職場環境を整えて行く。

IV. 看取りケアの充実

昨年4月～12月中、病院で亡くなられた方が18名、施設で亡くなられた方が7名。内、病院で入院され亡くなられて方が1ヵ月以内で67%2ヵ月以内には約90%と非常に高い値であり、その中で契約時に病院での看取りを希望された方は0%であった。

その為、施設の看取りについて本人様・家族様から「この施設で最後を看とれて良かった。」と言って頂けるようQC手法を活用し看取りサービスの向上・システムを築く。

V. 介護統計について

平成29年度介護状況目標

項目		月平均目標
日中オムツ使用率		15%
入浴統計	特浴	40%
	個粹	35%
	個浴	25%
食事形態	普通食	30%
	刻み食	35%
	極刻み食	20%
	ミキサー食	15%
	経管栄養	0%
褥瘡発生数		月平均2件
看取り介護実施		100%

VI. 各班目標

【3階1班】

家族様面会時には積極的にコミュニケーションを図り信頼関係を構築する。昨年度の事故件数が月平均3.8件であり、その内見守り不足によって転倒し骨折した事故が3件であったため、見守り不足による骨折事故を0件・班内の事故を1月2件に減少させる。その為には、事故内容を深く検討し対策する。又ユニット会議を月1回開催する事で、情報の共有・決定事項の周知徹底・ケアの見直しを実施して職員一人一人の意識を向上に努め、職員同士で注意し合う環境作りを目指す。

【3階2班】

次世代の新人指導が出来る程度まで、指導力を向上する。又今後新しい職員が増え、技術不足や不注意等による介助時の事故が危惧されるため、ヒヤリハット報告書を活用し毎日1件提出し気づきの重要性を認識させる。

また、介護技術向上の為に月1回程度のユニット会議をして介助方法を伝えていき、事故の減少に努め、昨年度の事故件数は1月平均2.2件であった為、1月の事故件数を2件までに抑えたい。

【4階1班】

4階1班・3班の業務内容を見直しフロアが一体となり、協力体制・情報の共有が密に取れる環境を整備する。又職員間の意識を統一し、自発的な働きを心掛け指導・指示に加え、個々の対応能力の向上を課題とする。

【4階3班】

昨年度の平均事故発生数が1月平均4.7件あり、職員を中心として介助方法の検討等班内で行えるようになってきている。特定の入居者の事故が発生しているため、未然に事故を防止していきたい。

Ⅶ. 事故発生率の減少

- ① 昨年度のQC活動で事故件数の減少をテーマに活動を行い、平成27年度月平均21.5から平成28年度月平均16件と、昨年度に比べ事故件数25%減少と効果を得ることが出来た。

しかし、職員が介助中の表皮剥離の発生事故が多いため、今後リスク委員会を中心職員の介護技術の見直しやQC手法を活用し、問題点の洗い出し、取組み、対策に努め事故を減少していきたい。

- ② 360度レンズを使用したカメラを全居室及びフロアに設置し、職員で限界のある見守り状況を強化し原因不明の事故の原因追究及び対策実施を行い事故の減少を図る。
- ③ リスク委員会を通し、ヒヤリハット報告の提出の継続と状況確認を行う。また、事故状況の分析力を強化すると共に、同職員による事故が疑われる場合は、数日は二人介助での介護の提供を行い、個人が原因の事故の再発しないよう教育・確認を行う体制を築いていく。

Ⅷ. 収入の確保

昨年度、課税世帯の方の負担減を目的に課税世帯で入居される個室の居室料を1日2670円～2200円へ減額を行った。その為、1月の収入が約22万円の減額が予想されている。また、管理栄養士等の他職種との連携による加算取得や、状態に合わせた介護度の変更申請を行う事で収入を確保し、ショートステイ・医務・病院の地域連携室との連携を行い入退院に向けたベッドコントロールを行い、入所率98%以上を目指していきたい。

平成 29 年度サンライフ御立ショートステイ

事業計画書（案）

新チームとして 2 年目を迎えるにあたり、ショートステイとして必須である接遇の見直しに力を入れ、「また利用したいと思えるショートステイ」について各自が考え、サービスの質の向上＝満足度へとつなげていきたい。また、人員不足で業務に追われる日々であるが、無駄のない仕組みや最新鋭の道具の活用によって、活力ある職場と生産性の向上を目指していく

I. また利用したいと思えるショートステイ

長らくご利用の方が施設入所されたり亡くなったりされ馴染みの方がかなり減っている。新規のご利用の方にまた利用したいと思って頂くためにはどうするのか、どうすれば選んでもらえるのかを各自が考えていく必要がある

- ① 言葉遣いの乱れをなくし気持ちよく過ごして頂くための声かけを行う。
お互いの発言を聞き「他者が不快に感じる言い方はしない」をルールに注意しあうようにする。また、上司が手本となるような言動を徹底し、指導していく。
- ② 出勤シフロアに出る際に利用者様に挨拶を必ずするようにする。新規の方には不安のないよう声をかけることから始める。「ようこそお越し下さいました」「私たちに何でもおっしゃって下さいね」必ず声に出すことで迎える側の意識の向上を目指していく。
- ③ 新規の方を迎えるにあたり各自が事前のケース確認を必ず行うと共に、相談員から申し送りを行う。また、利用中気づいたことを共有できるよう記録に残すようにする。
- ④ ロングショートの方には居室担当の職員が家族様に電話でご挨拶と意向の聞き取りをし、すみやかにケアプラン作成を行っていく。来園時も積極的にコミュニケーションをとり信頼関係を築いて特養入所の土台作りを行っていく。
- ⑤ 人員不足でおろそかになりがちだったレクリエーションに力を入れていく。1 日なかで時間を決めて行う以外にも季節に合ったおやつレクなども積極的におこなって楽しいと思える時間を作るよう全員で取り組んでいく。
- ⑥ 忘れ物ゼロを目指し、現行のチェックシステムの改善点を全員で考えていく。自分のミスでの忘れ物があれば電話での謝罪、その後の対応を責任もって行い、再発防止策を発信するところまでを行う。

II. 活力ある職場作りで生産性をあげる

昨年に引き続きリフレッシュ休暇を含む年間 8 日以上の有休取得を必須としワークライフバランスを整えることで働きやすい職場を作っていく。また、職員が全員 1 年以上の継続勤務となることから各自に責任ある業務を振り分け、レベルアップを目指すと共にリーダー業務の軽減を図り、その分現場を広く観察する目を養っていく。新ベッドの機能やその他介助負担を軽減する道具（コールクッションや前受テーブル、スタンディングトランスファ）を積極的に使用し、腰痛の予防を行うと共に無駄を省き効率の良い仕事で生産性の向上も目指していく。

VI. 事故防止の取り組みを継続していく

昨年度のQC活動から取り組んでいる事故防止策である「フロアに必ず一人の職員がいるようにする」を継続して行っていく。人員不足で困難な面もあるが、声を掛け合い、次の行動までほんの少し待ってから動き出すことで、防ぐことのできる事故が沢山あったことを忘れず、定期的なポスター掲示も続けて行っていく。

VII. 収入・利用者の確保

昨年度より静養室の使用をなるべく控えたほうが良いとのことで緊急受け入れ時以外の使用をしていない状況であるため今年度の予算は以前よりやや控えたものとしている。1 か月約 9 件の新規契約を行っているが、新規の方のリピーターがあまりなく、長年ご利用だった方々が施設入所されたり亡くなられたり毎月利用される方がかなり減少している。現場での接遇面の改善を急ぐと共に、御立のカラーというものを前面に出してアピールしていく必要がある。併設型の強みや特色をふまえて宣伝をうっていく。新規で何度かご利用の方のニーズをとらえ、定期の利用も勧めしていく。単発利用の利用者様の具合によってはロングショートの枠を増減させることも常に視野に入れておき、事前面談に積極的に出向き利用者確保に努める。

平成 29 年度の目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成 28 年度実績	10,870	10,946	10,781	10,601	10,285	10,366
平成 29 年度目標	10,070	10,257	10,070	10,257	10,257	10,070

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度実績	11,065	10,937	10,578	9,553	10,500	10,700	127,182
平成 29 年度目標	10,257	10,070	10,257	10,257	9,961	10,257	122,022

※ 平成 28 年度 2 月、3 月の実績については予想の額です。

平成 29 年度 特別養護老人ホームサンライフ御立（医務）

事業計画書(案)

特別養護老人ホーム入所者の重度化が進み、病院への受診者数も増加している。入院すると現疾患に加え潜在性疾患が表面化し、入院日数が長くなると同時に、帰園出来ないケースも増えてきている。

H28 年度の入退所者の結果、及び死亡率を考えた時、入所契約時には約 70% の家族様が看取りを希望されているにも関わらず、病院での死亡が 18 人、施設での看取りは 10 人であった。この事から、家族様への看取りについての理解が薄いと感じている。

H29 年度法人の運営方針「活力ある職場を提供し、生産性をあげる」スローガンに基づき、以下 3 点の項目について取り組んでいきたいと考えている。

I 家族様に施設での看取りケアについて理解を深める。

1 家族様を対象に、看取りについてアンケート調査をする。

2 アンケートに基づきマニュアルを作成する。

3 他職種との協働と連携

相談員・介護員・管理栄養士・看護と協働のもと、利用者様・家族様とのコミュニケーションを密に信頼関係を築き、その人の思い・願いに応えられるようチームワークの強化を目指す。

II 健康管理

1 利用者様の健康診断を年 1 回実施

利用者様に対しては、配置医師の協力のもと、潜在性疾患を検索し、異常の早期発見と適切な治療を促す。

2 職員の健康診断を年 2 回実施（深夜業に従事する者を含む）

産業医の協力のもと、生活習慣病・職業病への認識を深め、安全な就労への啓発を行う。

III 感染予防

1 インフルエンザ予防接種

利用者様に対しては家族様の協力を得て予防接種を促す。

職員に対しても予防接種の励行、感染対策マニュアルの周知を促し感染に対する意識を高める。

ノロウイルスに対しては「一行為一手洗い」・嗽の励行を徹底し、施設内感染が最小限にとどまるよう環境整備に努める。

平成29年度 特別養護老人ホームサンライフ御立(厨房)

事業計画書(案)

昨年度は、非常勤職員の退職・休職等により、調理現場の人員不足が続いた。人員不足にあわせたことで献立がパターン化してしまったり、利用者様の食事の様子を伺う時間をとれなかったり、会議等への参加も難しい状態であった。

今年度は、厨房の床の防水工事をを行い、衛生管理を徹底し、安全な食事提供に努める。厨房機器の取替により作業の簡略化を図り、献立の充実につなげる。また、空調の取替工事にて厨房の適温維持し、ガスを全て最新の涼厨対応機器に変更することで、職場環境を整え人材の定着につなげたい。また、新たに3名の管理栄養士を採用したため、手が回っていなかった管理栄養士業務についてももしっかり取り組んでいきたい。

I 人材の定着・育成

昨年度は、急な休職・退職により業務の引き継ぎの漏れや、指導が曖昧だった部分があった。また、入れる時間帯やできる仕事に偏りがあるため、全体の業務内容を把握できている職員が減少し、一部の職員に負担がかかっている。

今年度は、引き継ぎをスムーズに行い、業務の把握ができていない職員を増やしていく。一部に負担が偏ることがないように、各職員が同程度の仕事ができるように個々の仕事の幅を広げる。また、業務内容や1日のタイムスケジュールを把握することで、それぞれがフォローし合える状態にしていきたい。

II 献立の充実

人員不足により、献立がパターン化している。入居者様の行事食、旬の食材を取り入れたメニューを献立に入れたり、嗜好調査の結果を反映させたりすることで献立の充実を図る。また、厨房機器取替工事により、新たにスチームコンベクションオーブンを導入するため、新たなメニューの取り入れも検討していきたい。

III 衛生管理

今年度に床全面の防水工事、最新機器の導入により(排水ドロー付回転釜、スチームコンベクションオーブンの自動洗浄等)床に水を落とさないように徹底することで、細菌の繁殖、害虫の発生を防ぎ、今まで以上に衛生管理に徹底していく。

大量調理施設衛生管理マニュアルの改正に伴い、改正のあった部分についてはまとめた資料を配布する等をし、職員でマニュアルを把握する。また、全国の施設で発生した食中毒の情報収集、それを共有することで、衛生管理に対する意識の向上を図る。

平成 29 年度 デイサービスセンターサンライフ御立

事業計画書

今年度より総合事業への移行があり要支援者に関しては契約の一部変更を行っていくとともに混乱が生じないように職員全員に内部研修を通し総合事業への理解を深めていく。また前年度に引き続き利用者の要望に合わせたレクリエーションを行い新規利用者の獲得にもつなげていきたい。今年度より生活相談員の変更があるため業務の引き継ぎをしっかりと行いスムーズに新体制へ移行していけるよう努めていく。

I 介護力の向上およびチームワークの向上

- ・利用者様の重度化が進むなか職員の介護力向上のため介護講習を実施し一人ひとりのスキルアップをめざし利用者様及び職員にとって安心して安全な介護を実施できるよう努める。
- ・急なトラブルが生じた際は必ず報告・相談・連絡を行い必要に応じて緊急の会議を開くなどして問題解決に向け連携をとっていく。常勤職員についてはトラブル解決に向けた対応を統一できるよう適宜話し合いを実施する。
- ・新規利用者様はじめ利用年数の長い利用者様の状態変化への把握として連絡ノートの活用・ADL表の見直しなどを行い現在の個々のニーズに合ったサービスを提供していく。
- ・生活相談員の交代があるが業務の引き継ぎをしっかりと行い、内部・外部とも混乱がないよう連携しながら新体制に移行していく。

II 職員の質の向上と人材育成

- ・29年度から始まる総合事業への移行に関しての勉強会などを実施し職員全員が理解していく。また、常勤職員においては見学や契約時等利用者様、家族様が理解し安心して利用できるよう法令等の知識習得に取り組み専門職としての意識を高めていく。
- ・利用者様に対する言葉づかい等基本的な接遇面を再度見直し気持ちよく利用して頂ける環境を作る

III 新たなレクリエーションの導入

- ・介護度に大きな差があり集団での対応が難しくなっており、個別対応によるレクリエーション等の提供が必要になってきている。前年度より引き続き個別レクリ

エーションの多様化を取り入れ介護度や利用者様の状況に合わせたサービスを提供するとともにセラバンド体操や音楽療法・カラオケなど集団で実施できるプログラムを充実させマンネリ化を防止していく。

IV新規利用者数の確保

- ・前年度は下半期に多く営業活動を行ったが新規利用者獲得には繋がらなかった。今年度はデイサービスで実施している内容を見える化できるよう営業内容の見直しを行い、ケアマネージャーや利用者様に御立デイサービスをアピールできるよう検討しながら営業活動を行っていく。また、事業所に定期的に訪問しデイサービスに求められているサービス等を伺いながら取り入れていき強みに変えていく
- ・現在も多くの重度の方が利用されているためショートステイの利用・特養入所など視野に入れ営業活動を行い事前準備に努める。

平成29年度予想利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	24.5	23.4	25.6	24.2	23.2	23.9	144.8
月合計(人)	636	610	667	629	626	622	3790
平成29年度予想	23.8	24	25.6	26.1	25.8	26.5	151.8
月合計(人)	595	648	665	678	696	689	3971

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	25.6	24.3	23.7	23.1	23.5	23.8	24.0/月平均
月合計(人)	665	631	634	579	564	643	7506
平成29年度予想	27.3	27.6	26.7	26.5	27.6	28.9	26.3/月平均
月合計(人)	709	717	694	662	662	780	8195

(28年度2月3月 予想)

平成29年度目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	5,153	4,744	5,138	4,803	4,827	4,758	29,423
平成29年度予想	4,549	4,956	5,082	5,186	5,320	5,253	30,346
差異	-604	212	-56	383	493	495	923

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	5,066	4,897	4,830	4,559	4,310	4,912	57,997
平成29年度予想	5,411	5,474	5,339	5,093	5,054	5,931	62,648
差異	345	577	509	534	744	1,019	4,651

(28年度2月3月 予想)

平成 29 年度 ケアハウスサンライフ御立

事業計画書 (案)

入居者が、精神面及び身体面において心穏やかに安心して生活できる様サポートをしていく。個々の入居者により、要望も様々であるので細かな配慮が出来る様に他部署との連携を図る。ADL の低下抑制を重点項目にあげ、それに伴う各種行事への参加支援、相談サービスの充実に努める。

様々な行事やクラブ活動などを計画して入居者のひきこもりを防ぎ、楽しくメリハリのある生活が送れるよう支援を行なう。毎日の生活の一部となる様、体操や学習療法を組み入れるなどして身体的機能の現状維持を図る。

また、日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応する。

I 健康面及び精神面の相談サービスの充実

大半の入居者は、かかりつけ医に定期受診をして健康管理がなされている。

月 2 回の健康チェックを実施し、体調の変化に留意する。病気の早期発見や早期回復に努める。参加率を上げ、日頃から入居者の精神面、身体面の変化や悩みをくみ取り、安定した生活ができる様支援をする。

ケアハウスにおいての生活に不安を覚えるようになる前に身元保証人との話し合いを行ない、介護認定申請を行なう等のサポートをする。

骨粗鬆症予防や骨折予防の為、毎日の散歩を奨励する。ホール、廊下等のウォーキングの習慣化に持っていける様アドバイスをする。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー・デイサービス・グループホーム・ショートステイ等との相談サービスの充実に努める。

H29. 2. 18 現在

①介護認定状況

単位:人

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	合計
5 階	5	2	5	3	0	15
6 階	6	6	2	1	2	17
合計	11	8	7	4	2	32

②サービス利用状況

単位:人

	ヘルパー	訪問看護	デイサービス	生きがいデイ	福祉用具貸与
5 階	7	2	6	1	4
6 階	9	0	7	0	5
合計	16	2	13	1	9

③入居者年齢・性別状況

単位：人

	～74才	～79才	～84才	～89才	～94才	合計	平均年齢
男性	0	2	2	2	1	7	83.0才
女性	2	2	6	8	7	25	84.3才
合計	2	4	8	10	8	32	83.6才

最高年齢：93才(女性) ,最低年齢：62才(女性)

II 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続するように努め、新たな教室の開拓を図る。入居者のふれあいの場とし、居室での引きこもりを防ぎメリハリのある生活を送れる様サポートする。

入居者が各種行事に参加することが楽しみとなり、また積極的に参加していただける様なプログラムを検討し、充実した内容にする。

年6回の誕生日会、季節ごとの外食やバスハイク等の行事を計画し、生活の楽しみの場を設けていきたい。

学習療法は12年目になる。大幅な内容の見直しを試み、持ち帰りの形で入居者の意欲を高める内容にしたい。

フラワーアレンジメント教室は、生花に触れることによる癒し効果が期待できるので継続し支援したい。

うたの会、アートフラワー教室は、前年度同様継続していきたい。

月2回実施の買物サービスは、毎回参加希望者が増え回数の充実を検討したい。

III 相談サービスの充実

様々な悩みや不安を和らげ、安心感をもって生活できるように相談業務を充実させる。入居者の年齢幅が大きくなっている。親子程の年齢差が生じ、それ故の問題も出ている。

ケアハウス職員会議を開き、意識統一を図り、職員間の対応の差を無くしていく。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー・デイサービス・グループホーム・ショートステイ等との相談サービスの充実を図る。

IV 空室ゼロの対策

入居に際しての問い合わせ、入居希望の見学者は現入居者平均年齢(83.6才)前後である。よって、居住年数も短くなっている。重ねて設立当初の入居者も高齢となり、退去が目立つ。

如何に退去からその後の入居を短期間でスムーズにやり遂げられるかがポイントであるが、毎回退去者の荷物の搬出、リフォーム等に手間取る。費用面においても、管

理費・事務費は月払いであるので月初の入居となる。

又、近い将来の入居希望者(待機者)の確保も重要である。

平成 28 年度実績及び平成 29 年度予算

単位：千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	4,646	4,448	4,710	4,547	4,830	4,467	27,648
平成 29 年度予算	4,718	4,483	4,659	4,427	4,684	4,332	27,303
差額	72	35	-51	-120	-146	-135	-345

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	4,688	4,518	4,861	4,425	4,239	4,091	54,470
平成 29 年度予算	4,587	4,512	4,777	4,522	4,748	4,559	49,566
差額	-101	-6	-84	97	509	468	538

平成29年度 ユニット型老人ホームサンライフひろみね

事業計画書（案）

平成29年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」を元に活力ある職場作りへの参画を行うとともに、常勤職員の補充を行うことで人員不足を解消したい。また、非常勤看護師を1名雇用することで医療行為の対応を強化し幅広い支援が行えるようにしていきたい。栄養マネジメント加算についても人員が確保でき次第、再取得に努めたい。防犯用品の準備や訓練を行うことで犯罪から利用者や職員の安全が確保できるように努めたい。平成28年度に播磨地域福祉サービス第三者評価機構による第三者評価で受けた指摘事項を参考に、既存のマニュアルの再確認と追加作成を行い組織体制の確立に努めたい。

I. 科学的介護の実践について

- (1)施設全体で日中おむつ外しに取り組むことで、日中おむつ率0%を目指したい。また、一時的におむつを着用することになったとしてもトイレでの排泄が再度適うように努力する。
- (2)統計を出し視覚化することによって介護の質の向上を目指す。
- (3)出ている症状の原因を検証し対策を施すことでより効果的なケアを実践する。

II. 職員教育・組織体制作りについて

- (1)個々の役割を明確化することで組織としての運営を効率よく行う。
- (2)情報共有の効率化として介護支援ソフトの活用を行う。
- (3)新入職員を配属することで人員確保に努め、過不足のない人員体制を構築し職員・利用者に負担が生じないように努めたい。
- (4)新入職員へのマンツーマン指導を行うことで、基本的な介護技術や理念の習得を図ると共に、不安や疑問をすぐに相談できるよう配慮し、安心して意欲的に働ける職場環境作りを目指す。
- (5)職員個人の特性や意欲的な思いが活かせるよう、また、各ユニットのチーム力を強化する為、ユニットリーダーを中心に月1回のユニット会議に加え緊急時のユニット会議を設ける。また、他ユニットとの情報の共有や協力体制を継続するため、リーダー会議を継続していく。
- (6)ユニットリーダー研修に参加することで現在のユニットリーダーの知識・技術を

向上し当施設のサービス向上に努めたい。

- (7)介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員受験資格取得者に対し、実務者研修への参加を勧め、費用の半額負担を行ったりサンライフ御立での勉強会への参加を勧め、資格取得をサポートする。
- (8)平均要介護度が 4.47 と重度者が多い為、重介護に対する介護職員の腰痛を予防するため介助方法の検証や体操、腰痛ベルトの貸与、介護ロボットの導入を検討する。
- (9) ヒヤリ・ハットの収集方法を検討し提出する習慣をつけて原因を追究し対策をとることで事故予防や再発予防に努める。
- (10)虐待は介護者と認知症高齢者の間に上下関係ができてしまうことで生じる可能性がある。ニックネームの使用禁止や言葉遣いについての指導、認知症についての研修を行うことで認知症高齢者の理解を図り、職員・利用者間において上下関係の構築を予防し虐待の発生を防ぎたい。
- (11)家族へ看取り推奨を行うことで自然な形での最期が迎えられるような方向に進め、看取りが特別なものではなく当たり前に行なえるような体制を整える。また、看取りについての研修に参加しスキル向上を目指す。デスカンファレンスを行い、職員の負担軽減やターミナルケアの質の向上に努めたい。
- (12)第三者評価で受けた指摘事項を参考に、既存のマニュアルの再確認と再検討を行う。現在の実情に合わせたマニュアルへ更新を行う。
- (13)記録の再確認を行い、記入漏れや間違いがないかを確認する。
- (14)人員を確保して外部研修への参加回数を増加する。
- (15)防犯対策用品を購入し、防犯訓練を行うことで利用者や職員の安全が守られる体制を確立したい。

IV. 地域貢献について

- (1)2 か月に 1 回の運営推進会議を開くことで施設の情報提供し地域の方や民生委員、家族、利用者、地域包括支援センターとの関係を築く。
- (2)地域の方と交流をもつため地域行事へ参加する。
- (3)広報誌を自治会の回覧に入れてもらうことで情報の公開を図る。
- (4)地域の防災訓練に参加することで災害時の連携体制を整える。
- (5)姫路市医師会看護専門学校の実習を受け入れることで地域医療の発展に貢献する。

V. 介護統計について

平成 29 年度介護状況目標

項目		平成 29 年 2 月末状況	平成 30 年 3 月末目標
日中オムツ使用率		1 名 (3%)	0 名
入浴統計	特浴	0 名 (0%)	0 名 (0%)
	リフト付個浴	27 名 (100%)	29 名 (100%)
	個浴	0 名	0 名 (0%)
食事形態	普通食	17 名 (63%)	22 名 (76%)
	刻み食	0 名	0 名
	極刻み食	10 名 (37%)	7 名 (24%)
	ミキサー食	0 名 (0%)	0 名
	経管栄養	0%	0 名
褥瘡者		1 名 (3%)	0 名
身体拘束		0 名	0 名
看取り介護実施 ※		5 名 (80%)	(100%)

※看取り介護実施率=看取り介護実施者/全退所者（急死を除く）

VI. 事業運営について

毎日のバイタル測定や健康チェックを行うことで疾病の早期発見及び治療につながり、疾病入院の予防を図りたい。また、見守り介護ロボットの活用による事故による骨折入院の予防、サンライフ御立ショートステイやサンライフ土山のショートステイを利用して頂き長期入院や急な退所による入院・空きベッド数を減少することで稼働率 99%以上を目指す。また、使用している物品の質や価格を見直すことでコスト削減を図りたい。

加算については加算の算定要件の再確認を行い、過誤が生じないように努める。栄養マネジメント加算の取得が出来ていないため人員が確保出来次第、再取得を目指したい。

VII. 年間収入予想（平成 28 年度 2 月～3 月は予想）

（単位 千円）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
H28	11,898	12,609	12,363	12,681	12,464	12,322	74,337
H29	12,403	12,795	12,394	12,803	12,795	12,394	75,584
年度	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H28	12,721	12,287	12,717	12,653	10,954	12,566	148,235
H29	12,795	12,403	12,795	12,795	11,667	12,803	150,842

平成 29 年度 デイサービスサンライフ田寺

事業計画（案）

新規利用者獲得に向け営業活動を継続的に行いケアマネ、家族様との信頼関係を図っていく。利用者様一人ひとりにあった個別支援を提供できるようフロア会議・職員面談を定期的に行い介助の注意点等、職員へ周知徹底していく。職員の人員不足が続いているなか介護事故が増えている傾向にあるため、日々の業務の見直しを行い利用者様に安心・安全にデイサービスを利用して頂けるよう努めていく。職員の資質向上のため定期的に勉強会や介護テストを実施し職員一人ひとりの介護力の差が出ないよう指導する。

I. 利用者数の確保

昨年に比べ利用者数は増加傾向にあるが、入院や特養入所による急な利用中止者の空きを埋めることが出来ていない状況である。利用回数を増やしたいと希望があるものの、希望利用日は定員に達しており利用回数を増やせていない。空き状況を常日頃から家族様、ケアマネへ伝えていき利用回数を増やしていけるよう連携をとるよう努めていく。平均利用者数が現在 27 名と昨年同様の数字となっているため新規居宅への訪問を積極的にを行い一日の平均利用者数 30 名以上を目標としていきたい。

II. 介護の質の向上・チームワークの向上

・昨年度に比べ介護事故件数は減らすことができたが、12 月から 1 月にかけて事故が 3 件も発生する結果となった。事故が発生した際には、今後の対策をその都度話し合い職員の危機意識を高め、未然防止を図れるよう努める。また、定期的にフロア会議を実施し、職員一人ひとりが自身で考え行動出来る体制を整え少人数でも事故を未然に防ぎ利用者様に安心して過ごして頂ける空間を作っていきたい。また、勉強会を行い利用者様・職員に無理のない介助方法を学び日々の業務へ取り入れていけるよう力を入れるとともに職員一人ひとりの介助力に差が出ないよう努めていく。

III. 人員配置について

フロア職員・送迎職員の定着が出来てきたが、入浴職員の欠員が現在も出ている状況である。また、1 月より常勤職員、非常勤職員 2 名の休職があり現状フロア職員も人員補充が必要であったため 2 月よりフロア職員として派遣職員 1 名を採用することができた。また入浴職員も 1 名採用となったが入浴を希望する利用者様の増加もあり、

時間内での業務が困難となってきた。今後も求人募集を行いつつ、フロア職員や他部署からの応援を事前に行い職員不足による介護事故等が発生しないよう注意していき、残業時間を0に出来るよう業務の見直しを行う。

また、看護職員が現在3名在職しているが、出勤日数の都合により個別機能訓練加算が算定できていない状況である。日々の業務が1名の看護職員では負担が大きいため2名配置できるよう新たに職員募集を行うとともに、個別機能訓練加算を算定できるよう人員配置を行っていく。

V. レクリエーションの充実化について

4月には職員の入れ替わりもあり実施出来なかった恒例行事のお弁当外出も11月には人員調整を行い実施することができ、「行けて良かった」と日頃の外出に参加されない利用者様にも紅葉を楽しんで頂くことができた。しかし、お弁当外出時の職員の業務の負担や長時間車内で同じ姿勢のまま過ごすため利用者様への負担も考えお弁当外出の企画は残したまま、外出する場所を近場へ変更することで職員・利用者様の負担軽減に繋げていきたい。また、職員の配置が難しく外出時にはトイレ休憩のみで車内で過ごす外出が増えてしまっているため、近場の公園等へ外出を行い歩行訓練などリハビリに繋がる外出を実施していきたい。

平成29年度 予想利用人数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成28年度実績	27.2	27.1	27.3	26.3	26.5	26.8
月合計	708	734	684	711	689	697
平成29年度目標	27.2	27.7	27.1	26.7	26.7	27
月合計	717	734	690	711	692	697

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	25.8	26.6	27.6	27.9	28	27.8	27.0/平均
月合計	696	666	746	671	676	720	8398
平成29年度目標	26.8	27.6	28.6	29	29	30	27.7/平均
月合計	696	666	750	671	659	720	8403

※2、3月実績は予想です。

平成29年度 目標収入

(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	5,411	6,218	5,913	5,885	5,973	5,554	34,954
平成29年度目標	6,200	6,379	6,119	6,126	6,007	6,110	36,941
差異	789	161	206	241	34	556	1,987

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	5,652	5,459	6,146	5,523	5,449	5,885	69,068
平成29年度目標	6,038	6,073	6,465	5,908	5,857	6,227	73,510
差異	386	614	319	385	408	342	4,442

※2、3月実績は予想です。

平成 29 年度 ヘルパーステーションサンライフ御立

事業計画書 (案)

平成 29 年度 4 月より介護予防訪問介護が総合事業に移行する。専門職をより専門的な支援が必要な利用者様へのサービスに重点化していくと言う趣旨から、今後も増加していく中重度の要介護者の身体介護・在宅支援に対応していくべく、サービスの質の向上、それに向けての強化に努める。

今年度のスローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を念頭に、関係機関・家族様との連携強化を図り、皆様に信頼される事業所運営を日々心がける事で、利用者様の更なる確保に繋げて行きたい。

I. 職場体制の充実化に向けて

1. サービスの質の向上に向けた教育・研修への取り組み

・今後見込まれる中重度の要介護者の支援促進・身体介護増加に対応出来るよう、継続して月 1 回の内部研修の充実を図る。ニーズの多い、身体介護の知識・技術を高める。不参加の場合はレポート提出を義務付け、研修の重要性を認識してもらう。

研修内容は、引き続き、常勤職員が月交代で担当する事により、責任感の植え付け、登録ヘルパーとの相互向上出来る内容で実施できる様、努める。

・利用者宅でのサービス内容でも、伝えた側と受け取った側の解釈の違いもあり、利用者様への直接的なサービスの差異が生じてしまうのが現状である。

定期的なサービス中の職員訪問により、登録ヘルパー一人ひとりの達成・把握レベルを確認する事は必要だと感じる。

一人ひとりがプロとしての意識の元、基本を再確認しながらサービスが継続出来る様、叱咤激励しながら、サービスの向上・介護力の向上に努めていきたい。

・今現在、訪問介護員の半数が介護福祉士を取得している。引き続き、資格取得への声かけ・サポート体制がとれる様、全員取得を目標に勤務環境等にも配慮していく。

ケアマネ資格についても、受験資格のある者には随時声かけを継続していく様努める。

2. 各事業所との情報共有・チームワーク向上

・訪問時間や休日の違う常勤職員間での連絡方法として、引続き、連絡ノート・メール等で、情報の共有を図り、報告・連絡・相談、情報交換が速やかに出来る様に徹底する

・各事業所との連絡も密にとり、利用者様の声を速やかに伝えられるように、体制強化に努める。そして、固い信頼関係を築く。

3. 職場環境について

- ・勤務の関係上、休日以外の有給休暇取得が難しい状態には変わらない。
今年度は更なる活力ある職場にする為、職員全員、リフレッシュ休暇を必ず取得する。
休日プラス有給取得で、連続休暇の実現に努める。
家族の行事には、必ず休んで参加出来る様、働きやすい職場を目指し、調整業務にも努める。
- ・登録ヘルパーに関しても、年2回(6.12月)の個別面談以外でも、相談・報告しようと思える関係の構築・時間を共有出来る様、努める。

II. 収入の確保について

- ・前年度は、長期にわたり当事業所をご利用し在宅生活を継続されていた、39名(2月現在)が当法人施設入所や永眠により、終了となった。その為、大幅な収入減・訪問件数減・利用者数減となった。しかし、有り難いことに終了者以上の新規利用者様獲得出来ているのが現状である。(2月現在56名)
今後も訪問増に向け、利用者様・家族様のニーズに、いち早く気づき対応できる様、連携に努め、継続した利用に繋げて行きたい。
- ・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターへの訪問、時間の許す限り足を運び、ヘルパーステーションの魅力を最大限お伝えし、信頼関係の構築に努める。
- ・実際の所、現在の人員では、今以上の利用者様の受け入れは難しい。今後、収入増を可能にする為にも、登録ヘルパーの早急な人材確保が必須である。
- ・新たなサービスへの取り組みとして、一部自費サービスの検討にも眼を向けて行きたい。

●平成29年度の収入目標

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成27年度実績	3330	2887	2952	3172	3098	3103	18542
平成28年度実績	2891	2947	3223	2817	2898	3142	17918
平成29年度目標	3100	3150	3250	3150	3050	3150	18850

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度実績	3295	3125	3180	2927	2986	2999	37054
平成28年度実績	2969	2881	2980	2881	3000	3050	35979
平成29年度目標	3150	3050	3150	3100	3050	3100	37450

(単位： 人)

●平成 29 年度の利用者数目標

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成 27 年度実績	103	103	98	102	101	103	609
平成 28 年度実績	100	98	98	94	97	99	586
平成 29 年度目標	100	99	99	95	98	100	591

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 27 年度実績	103	103	98	107	105	102	1228
平成 28 年度実績	103	102	102	99	100	100	1192
平成 29 年度目標	103	102	104	102	100	100	1202

●平成 29 年度の訪問件数目標

(単位： 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成 27 年度実績	1096	997	973	1025	989	992
平成 28 年度実績	961	967	1029	854	912	925
平成 29 年度目標	960	970	980	960	950	960

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成 27 年度実績	1098	1029	1043	942	938	976	1009
平成 28 年度実績	921	914	946	946	958	958	941
平成 29 年度目標	950	950	960	950	950	960	958

平成 29 年度 サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

年間目標

平成 29 年 5 月にサンライフ土山居宅介護支援事業所が開設予定であり、5 月より 3 名（常勤職員 1 名、非常勤職員 2 名）で動くようになる。新規開設にあたりサポートを行うとともに職員の異動に伴い利用者様の混乱がないよう援助を行うよう努めていく。また初心に返り利用者様・ご家族の不安を取り除き、安心した在宅生活を送って頂けるよう支援を行うことで信頼できる介護支援専門員となるよう業務に努めていく。

I. 担当利用者の確保

3 名となり今後安定した事業所運営と稼働効率の向上のために各介護支援専門員の担当件数についての把握を定期的に行い、職員間で報告・連絡・相談を密に行うことで新規相談者への対応を迅速に行える体制づくりを行う。また、地域包括支援センター、他職種、他事業所に訪問し営業活動を強化することで新規利用者獲得に努めていく。

II. ケアプランの質の向上

4 月より総合事業が開始となり利用者様の「できる」部分に着目し、自立支援に向けたケアプラン見直しと利用者様と各関係事業所間でも目標を見直した上で情報を共有化し目標への方向性を統一していく。

介護サービスを行う上で利用者様の身体機能、環境、利用者様のできること、できないこと、求めていること、目指しているものは一人ひとりによって違いがあり聞き取りを行う上で整理していきより実現可能な目標設定を行う。

各関係事業所間とも密に連携をとることで利用者様のニーズに応じたサービス提供を行っているか確認ができ、情報の共有をする事で利用者様の心身の変化にも迅速に対応することができる為、新たなニーズにも迅速に対応する。また主治医とも必要に応じて連携がとれるよう努めていく。

毎月最低 1 回は利用者様のご自宅を訪問し、利用者様の状態を把握し、新たな課題が生じていないか、現状のサービス内容で満足されているか等確認する。また、ご家族にもサービス提供についての意見や在宅での利用者様のご様子等聞き取りを行うことで家族様の介護負担の軽減も視野に入れサービスの検討行っていく。

Ⅲ. 専門知識の向上

介護支援専門員は専門職であるという認識を持ち、地域包括支援センター・姫路市主催の研修会にも積極的に参加し、資質の向上に努める。また、平成29年4月より総合事業の開始にあたり、最新情報を収集・把握できるようにしていく。研修会での内容や最新情報等は事業所内で共有できるように情報交換・共有を行う。

外部研修	介護支援専門員専門研修・・・公募後 対象者全員 包括的・継続的ケアマネジメント支援研修・・・年間4回 全員 兵庫県・姫路市など主催の研修会・・・開催時 その他案内等によるもの・・・開催時
内部研修	倫理、個人情報保護に関する勉強会・・・ 全員 情報の収集・共有・・・随時 全員

Ⅳ. 特定事業所集中減算の回避

現在当事業所においては短期入所生活介護の紹介割合が80%を下回ることができておらず通所介護は80%に近い割合になっている。今後、新規開設に伴い各事業所の割合の変化があると予想される。引き続き中立・公正の立場で情報提供を行い他法人の事業所への紹介が出来るよう努める。

Ⅴ. 介護予防支援

平成28年度は、委託を受けている地域包括支援センターが増え、要介護者の新規依頼にも繋がったと思われる。29年度も引き続き、多くの地域包括支援センターとの連携を強化に努め、適切な援助が行えるよう心がける。

Ⅵ. 年間収入の目標

<総収入 目標>

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成28年度	1,771	1,730	1,783	1,719	1,781	1,808	
平成29年度目標	1,730	952	957	967	972	990	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	1,747	1,816	1,862	1,727	1,730	1,747	21,221
平成29年度目標	1,006	1,006	999	981	992	1,001	12,553

<介護予防支援費 委託受入目標>

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
123	77	81	81	81	77	520
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
85	85	85	81	81	81	1018

<訪問調査 委託受入目標>

(単位:千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
42	42	43	43	52	52	274
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
53	53	57	43	43	52	575

<年間利用者数の目標>

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援	29	21	22	22	21	22	23	23	23	22	22	22
要介護	133	75	75	76	76	77	78	78	77	77	78	78

平成29年度デイサービスサンライフ安室

事業計画書（案）

近隣にも別会社のデイサービスがオープンし、さらに事業所の経営状況も厳しくなっている。新たなサービスを確立し職員のマンネリ化を防ぎ、コンスタントに新規の利用者様に来ていただけるよう営業活動も続けていきたい。今年度は下記の目標を掲げて取り組んでいく。

【 目 標 】

- I. 個別機能訓練加算の算定
- II. 新たなサービスの提供
- III. 職員の意識・技術向上
- IV. 多方面による営業活動

I. 個別機能訓練加算の算定

昨年度は経験のある理学療法士を常勤で採用した。利用者様の居宅訪問にうかがい、ご自宅での困りごと等を聴き取りながら計画書を作成し、4月より個別機能訓練加算Ⅰ（46単位）の算定を再開する。加算の算定に加え、利用者様の身体機能の向上についての結果が目に見えて残せるよう多職種も連携してすすめていきたい。

理学療法士が出勤の日は、機械での機能訓練だけでなく、プラットフォームを使用した関節可動域訓練やマッサージを利用者様の希望と身体状況をみながら実施していく。

II. 新たなサービスの提供

① 園芸療法

施設の南側の庭スペースを利用し、園芸療法に取り組む。プランターを設置し、季節の花等を園芸を好まれる利用者様と共に育て、心身の活性化を図る。

② 昼食後余暇活動の充実

昼食後にベッドや自席で休まれる方も増えているが、手持ち無沙汰な方もおられる。例えば、人生ゲームやトランプといった少人数で楽しめるものを提供し、活動意欲のある方が空き時間を減らすよう工夫する。

III. 職員の意識・技術向上

- ① 週ごとに行っているレクリエーションがマンネリ化しているという声が職員からも挙がっている。レクリエーションだけでなく、業務の流れや雰囲気作り等他事業所はどのようにすすめているか見学をおこなう。見学をおこなった職員に感想文を書いてもらい、良かった点で参考になりそうな部分は取り入れていく。

- ②新規職員の入職等により、介護技術や認知症の利用者様への対応等の知識を持つ職員が減少しつつある。それらの解消の為、介助方法や緊急時の対応等の内部研修を定期的に開催する。

IV. 多方面による営業活動

- ①新たにフェイスブックのページを立ち上げた。SNSを活用し、より多くの方に事業所の活動と利用者様の様子を知って頂くよう努める。
- ③ 理学療法士も営業活動に参加し、在宅の環境を理解した上での福祉用具選定の相談等も受け付けている事を家族様や担当ケアマネジャー等へ周知していく。
- ③今まではサービス実績を郵送していたが、各居宅支援事業所や地域包括支援センターへ持参することでよりコミュニケーションが取りやすい環境をつくる。

平成 29 年度予想利用人数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成 28 年度実績	26.2	27.3	27.8	28.7	27.0	27.2	27,4/平均
月合計	692	709	722	745	730	706	4,304
平成 29 年度予想	27,2	28,0	28,0	28,8	29,2	29,3	28,4/平均
月合計	680	756	728	749	788	762	4,463

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度実績	28.1	27.8	27.0	26.2	26,2	27,0	27,1/平均
月合計	731	722	730	654	629	729	8,499
平成 29 年度予想	29,5	29,6	29,4	29,0	28,2	28,0	28,9/平均
月合計	767	770	764	725	677	756	8,922

平成 28 年度 2・3 月は予想です。

平成 29 年度の目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成 28 年度実績	5,782	5,910	6,474	6,142	6,334	5,989	36,631
平成 29 年度予想	6,095	6,380	6,353	6,480	7,019	6,849	39,176
差異	313	470	▲121	338	685	860	2,545

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度実績	6,336	6,065	6,082	5,573	5,359	6,210	72,256
平成 29 年度予想	6,786	7,303	7,105	6,880	6,206	6,719	80,175
差異	450	1,238	1,023	1,307	847	509	7,919

平成 28 年度 2・3 月は予想です。

平成29年度 姫路市安室地域包括支援センター

事業計画書（案）

平成29年4月より姫路市においても総合事業が開始となる。利用者様・家族様が混乱せずスムーズに移行できるようサポートしていく。また、介護サービス・介護予防サービス・生活支援サービス事業以外でも高齢者が参加できる地域活動の場作りを地域住民が主体となって取り組めるよう支援していく。

<総合目標>

地域力を高めていくために、地域住民が、共に支える地域づくりの必要性を理解し、主体となって取り組めるよう環境を整える。

I. 運営に係る業務

- (1) 課題：地域役員の改選に伴い、連携弱体化の恐れがある。
- (2) 目標：研修で得た知識や技術をチームで共有し、実践力の向上を図る。
- (3) 具体的支援（活動内容）
 - ・昨年度は人員不足のため、規定の人員配置ができず減算となった月があったため、今年度は人員確保と職員の健康管理を行い、働きやすい職場作りを行う。健康管理の一環として毎朝の朝礼時にラジオ体操を行う。
 - ・職員の研修計画をたて、各個人が足りていない分野を中心に積極的に研修を受け、その内容をその他の職員への伝達の機会を持ち、情報の共有化を目指す。
 - ・各職種の専門性を理解し、問題解決に向けてチームで取り組む体制の見直し、強化を図る。
 - ・新しい自治会長、老人会長、民生委員児童委員とも今まで築いてきた関係性が維持できるよう密に連携をとっていく。

II. 総合相談・支援業務

- (1) 課題：相談支援業務が個別の問題のみとなりがちで、地域支えあい会議につながりにくい。
- (2) 目標：個別の問題としてのみではなく、地域課題の分析・検討ができる。
- (3) 具体的支援（活動内容）
 - ・地域支えあい会議を通して、個別ケースの検討と共に、地域課題としても捉える視点を持ち、地域住民の参加を促す。

- ・ 準基幹型地域包括支援センターと連携をとり、地域課題の抽出を地域住民とともに
行う基盤を整備していく。
- ・ 2ヶ月毎に活動報告を作成し、自治会長・老人会長・民生委員児童委員等の訪問継
続し、支援を必要としている方の情報を収集し、迅速に支援できる体制をとる。
- ・ 各種サロンや地域住民の集まりに参画し、地域との交流の機会を増やすことでニー
ズを把握し、地域住民と協働し、問題解決へ繋げる。
- ・ 年4回地域包括支援センターだよりを発行しているが、マンネリ化してきているの
で内容を一新する。お元気さんインタビューを地域の活動紹介に変更し、地域の活
動の場を紹介し、地域力向上につなげる。

III. 権利擁護業務

- (1) 課題：地域で支えあう為の家族・地域住民同士の権利意識が低いところがあり、
虐待や権利擁護への認識不足から対応遅れにつながる恐れがある。
- (2) 目標：地域の権利擁護や虐待防止への理解を深められるよう啓発活動をし、支援
体制を整える。
- (3) 具体的支援（活動内容）
 - ・ 権利擁護事業に関する研修には、社会福祉士のみではなく他職種も参加し、知識・
技術の向上を図る。
 - ・ 通常支援だけでは十分な問題解決ができず、困難な状況にある高齢者に対しては、
成年後見制度・高齢者虐待防止・消費者被害防止等に関する諸制度等を活用し、関
係機関へつないでいく。
 - ・ 自治会の会合の場、認知症サロン、民生委員児童委員・推進協力委員の研修会、公
民館市民講座や介護予防教室等で権利擁護事業の周知・PRを実施する。
 - ・ 緊急性を要する虐待事例においては、対応マニュアルに基づきすばやく対応し、行
政へ通報・協力を仰ぎ連携し、検討していく。
 - ・ 社会福祉士（権利擁護事業に強い居宅介護支援事業所等）、司法書士、弁護士等の
専門職種のネットワークを構築する。

IV. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- (1) 課題：包括的・継続的ケアマネジメントの実践が可能な環境整備や介護支援専門
員へのサポート力が弱い。
- (2) 目標：多様な生活課題を抱えている高齢者が安心して、その人らしい生活を継続
するために、地域の介護支援専門員が途切れることなく一貫して支援できるよ
うな体制を整える。
- (3) 具体的支援（活動内容）
 - ・ 包括的・継続的ケアマネジメント研修を年間4回、対人援助技術・ケアプラン
作成技術の向上等を目的に行い、介護支援専門員同士の情報交換・交流の場とな

- り、気軽に相談できるネットワーク作りの強化をはかっていく。
- ・地域の主任介護支援専門員と協働し、地域包括ケアシステムの構築に向けて活動できる仕組みを作る。
 - ・社会福祉士が中心となり、地域の社会資源の情報を把握し、いつでも新鮮な社会資源情報を提供できる環境を整える。
 - ・介護保険サービスのみでは支援困難なケースも増えていることから、本人や家族の自己決定に基づき支援しているケアマネが抱えている問題も地域課題として捉え、適切に地域支えあい会議を開催し、課題解決に有効と思われる社会資源を整備していく。

V. 介護予防ケアマネジメント事業

- (1) 課題：地域住民の介護予防知識・関心は向上しつつあるも地域差・個人差がある。
- (2) 目標：地域住民が介護予防に関心を持ち、自主的・継続的に介護予防に取り組むことができる。
- (3) 具体的支援（活動内容）
 - ・安室公民館で「公民館の保健室」を今年度も共催し、地域住民に顔の見える関係性作りを継続し、認知症予防や介護予防に対する啓発を行う。
 - ・今年度は、安室東公民館講座においても、認知症予防や介護予防に対する啓発を行う。
 - ・いきいき百歳体操や老人会、各種サロンに参加し、介護予防啓発を行う。
 - ・いきいき百歳体操が普及してきているので、継続して活動ができるようサポートしていく。
 - ・今年度より安室東校区においてもふれあい喫茶に参加し、顔なじみの関係作りに努める。
 - ・介護予防啓発を行うことで、いきいき百歳体操会場・認知症サロンを増やす。
 - ・介護支援ボランティア事業（あんしんサポーター）を活用し、地域の助け合い活動の活性化および社会参加活動を通じた高齢者自身の介護予防を推進する。
 - ・各教室や高齢者の集まりで健康チェックや健康相談を行い、健康促進を目指す。

VI. 年間活動計画について

4月	田寺山手町ふれあい喫茶、維持期病院連絡会議、ふれあいサロン安室 いきいき百歳体操確認と指導、オレンジカフェ山田 安室公民館健康教室「公民館の保健室」
5月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいサロン安室、オレンジカフェ山田 いきいき百歳体操確認と指導、安室公民館健康教室「公民館の保健室」 安室東公民館講座「認知症について」 ふれあい喫茶北山
6月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいサロン安室、いきいき百歳体操確認と指導 オレンジカフェ山田、安室公民館健康教室「公民館の保健室」 ふれあい喫茶御立台
7月	田寺山手町ふれあい喫茶、いきいき百歳体操確認と指導、オレンジカフェ山田 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、維持期病院連絡会議 ふれあいサロン安室、中部第2ブロックケアマネ研修 ふれあい喫茶大池台
8月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいサロン安室、オレンジカフェ山田 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、いきいき百歳体操確認と指導
9月	田寺山手町ふれあい喫茶、御立山田敬老会、前山敬老会、オレンジカフェ山田 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、いきいき百歳体操確認と指導 ふれあいサロン安室、中部第2ブロックケアマネ研修 ふれあい喫茶田寺東
10月	田寺山手町ふれあい喫茶、維持期病院連絡会議、ふれあいサロン安室 いきいき百歳体操確認と指導、オレンジカフェ山田 安室公民館健康教室「公民館の保健室」
11月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいサロン安室、いきいき百歳体操確認と指導 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、オレンジカフェ山田、ふれあいの集い ふれあい喫茶御立山田 ふれあい喫茶辻井
12月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいサロン安室、いきいき百歳体操確認と指導 オレンジカフェ山田、安室公民館健康教室「公民館の保健室」 中部第2ブロックケアマネ研修
1月	田寺山手町ふれあい喫茶、維持期病院連絡会議、ふれあいサロン安室 いきいき百歳体操確認と指導、安室公民館健康教室「公民館の保健室」
2月	田寺山手町ふれあい喫茶、ふれあいの集い、ふれあいサロン安室 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、オレンジカフェ山田 いきいき百歳体操確認と指導、中部第2ブロックケアマネ研修
3月	田寺山手町ふれあい喫茶、いきいき百歳体操確認と指導、ふれあいサロン安室 安室公民館健康教室「公民館の保健室」、あんしんサポーターの茶話会 オレンジカフェ山田、安室東公民館講座「介護予防について」

Ⅶ. 年間収入について (総収入)

(千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28 年度実績	2,180	2,571	2,537	2,523	2,184	2,151	14,146
H29 年度目標	2,554	2,554	2,561	2,556	2,552	2,547	15,324
前年度差異	374	-17	24	33	368	396	1,178
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28 年度実績	2,168	2,560	2,518	2,517	2,526	2,544	28,979
H29 年度目標	2,524	2,536	2,544	2,556	2,554	2,564	30,602
前年度差異	356	-24	26	39	28	20	1,623

* 姫路市委託料:20,000,000(年間) 1ヶ月あたり:1,666,666

プラン作成件数 (自前プラン)

(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28 年度実績	193	192	186	183	186	184	1,124
H29 年度目標	186	187	190	188	186	184	1,121
前年度差異	-7	-5	4	5	0	0	-3
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28 年度実績	185	186	183	183	178	185	2,224
H29 年度目標	188	186	187	188	188	188	2,246
前年度差異	3	0	4	5	10	3	22

※H28年度3月は予想

平成 29 年度 特別養護老人ホーム

サンライフ土山事業計画書（案）

今年度、サンライフ土山では、利用者様に寄り添ったケアの充実を図っていく。サービス担当者会議や利用者様のケアに対しての意向・要望の確認・実施及び、利用者様・家族様にしっかり説明を行っていく。また、職員の資質に関して、職員一人一人が役割分担を行い、責任を持って行動できるように教育・指導をしていく。研修・委員会・行事等においては、土山全体での活動を通じて、業務の効率化や他部署と交流を持ち連携の強化を図り、また、全体で光熱水費の削減を目標としたい。地域との交流に関しては、引き続き実施していき、外出での地域交流にも参加していく。収入面では、昨年度の空床が 1.66 人/日（H28.4～H29.1 まで）より 1 人/日となるようベッド管理を行い、ショートステイと連携を図り、入院をきるだけ少なくすることや、退所後は次の入所の手続きがスムーズに行えるように体制を整え、収入の維持に努めていく。

I. 利用者様に寄り添ったケアの実施

昨年度の播磨地域福祉サービス第三者評価機構による評価にて、利用者目線に立った時に、苦情や意見を言えるシステムや、ケアプランの内容が利用者様に伝わっていないといった部分が弱かった。その上で、昨年度の実施した他職種連携を図りつつ、利用者様・ご家族様にも積極的にサービス担当者会議に参加して頂き、利用者様の思いに沿ったサービスを行っていく。また、都度の説明や、ケアプラン・栄養ケア・機能訓練の説明サイン時には、出来る限り利用者様にも立会いをして頂き、分かり易く説明したい。

ユニット交流スペースにあるボードを活用し、情報やシステムについては、誰が見ても分かるよう対応していく。

II. 個別ケアの充実及び各ユニット目標の実施

要介護度が重度化していく中、利用者様に充実した日々を送っていただけるよう、これまでの生活習慣を尊重すると共に、日常生活の観察や記録からの観察を行い、個別に支援するように努める。また、馴染みの家具の持ち込み等で、個別性を大切にしたい環境づくりにも力を入れたい。

- ① 歯科衛生士による口腔ケアや、介護職員による口腔体操・毎食後の口腔ケアを実施し、口腔機能の維持を図ることにより、できる限り最期まで口から食べていただけるようにする。また、月 1 回の研修会を通じて学び、知識を向上させる。
- ② 機能訓練指導員と現場の職員で ADL の評価を行い、個人に合った生活リハビリを

実施していく。同じ方ばかりがリハビリを受けている傾向にあるため、ユニット毎にリハビリ実施のチェック表を作成し、リハビリ機器を使用する方ばかりを優先するといったことがないようにし、可動域訓練・発語・洗濯物たたみなども公平に実施するように努める。

- ③ 出来る事・出来ない事を見極め、出来ない事を介助していきたい。また、定時のトイレ誘導以外にも、希望時には必ずトイレ介助をし、排泄意の維持や自立支援を図りたい。さらに、尿量に合ったパットを使用し、不快感の減少や羞恥心に配慮できるようにしたい。
- ④ 来年度の各ユニット目標として、2階西「報告、連絡、相談を確実に行う。」2階東「連絡帳の有効活用（記入・内容把握）をしましょう。」3階西「報告・連絡・相談を行い、安全に過ごして頂けるよう努める。」4階西「居室内の整理整頓を行う。」4階東「筋力低下防止の為、リハビリに力を入れる。」5階西「レクリエーションの充実。」5階東「褥瘡の治癒と予防。」を挙げている。情報共有を行うことで個別ケアに繋がり、また気持ちの良い空間で心地よい暮らしを提供し、事故や褥瘡等の予防、機能低下を図る。
- ⑤ 昨年度のQC活動で「事故の軽減」について取り組んだ。個別の事故対策・食事中の見守り・服薬介助は2人介助で行う等継続し、少しでも事故が軽減できるように今年度も努める。

Ⅲ. 職員一人一人の責任意識の向上

職員によって責任感や仕事の量が大きく異なっている。委員会活動やQC活動においても、メンバーの責任意識にばらつきがあった。人員不足が理由で、研修が出来ないといった事があったが、責任を持って対応する職員と誰かがしてくれるといった安易な考えになっている職員も見受けられる。その上で、職員一人一人が役割分担し、責任を持って対応出来るようにしていきたい。また、各ユニットの現場でも、常勤・非常勤関係なく役割分担し、日課業務分担に具体的に仕事内容を記入し、協力しあう体制を図る。委員会活動においては、次回のテーマ選定・課題やマニュアルの整備について考え、メンバーには、仕事を振り分け責任を持って期日までに実施してもらうように教育していく。

Ⅳ. 土山全体での活動の実施及び強化

現在、接遇委員会・感染症委員会・機能訓練委員会、口腔ケア研修/月1回は、特養・ショート・デイのメンバーが合同で実施している。行事は、敬老会・もちつき・クリスマス会・ボランティアの方の活動を全体で参加している。今後は、更なる土山全体での行事活動の増加や、研修においても各々の研修から、全体で研修を実施する体制に変更する事で、研修の効率化が図れ、他部署との関わりも増やしていきたい。

今年度土山全体で、光熱水費の削減及び消耗品のコスト削減を土山全体で実施していく。

V. 地域との交流

ボランティアの受け入れ・兵庫県老人福祉事業協会からの委託事業年3回や、地域との交流を図り、ボランティアの登録名簿等を作成し定期的に関わっていくことにより、サンライフ土山の認知数が増えてきている。今年度も引き続き地域の活動や行事に参加し交流を図り、地域の住民に愛される施設作りを行いたい。

特養研修計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護・医療研修	服薬介助について	バイタルサインズについて	食事介助について	急変時の対応	認知症について	褥瘡予防について
担当者	山岡	中元	中島	梅野	井神	磯部
介護講習	シーツ交換について	食事介助について	入浴介助について	排泄介助について	歩行について	福祉用具について
担当者	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木
ユニットリーダー対象	認定調査について理解	人員配置についての理解	収支についての理解	介護保険制度について	加算について	サービスについて理解(デイ)
担当者	宮崎	有本	山岡	宮崎	有本	高見
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護・医療研修	感染症について	体位交換、ギャッチアップについて	ターミナルケアについて	虐待防止について	基礎的疾患について対応	電話対応について
担当者	梅野・中元・中野	八木	磯部	山岡	古幸	高見
介護講習	盲者・聾者について	移乗介助について	着脱介助について	座位について	事例問題テスト	事例問題テスト
担当者	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木
ユニットリーダー対象	ユニット・従来特養の違い	入所基準について理解	ケアプランについて理解	機能訓練について理解	苦情対応について	見学対応実践
担当者	山岡	中野	宮崎	永井	中野	山岡

平成 29 年度介護状況目標

項目		平成 28 年度 2 月末状況 (入所者 70 名) 要介護度 4.26	平成 29 年度 3 月末目標 (入所者 70 名)
日中オムツ使用率		6 名 9%	6 名 9%
入浴統計	特浴	9 名 13%	7 名 10%
	リフト付き個別浴	61 名 87%	60 名 86%
	個別浴	0 名 0%	3 名 4%
食事形態	普通食	23 名 33%	36 名 52%
	刻み食	19 名 27%	16 名 23%
	極刻み食	22 名 32%	12 名 17%
	ミキサー食	5 名 7%	5 名 7%
	経管栄養	1 名 1%	1 名 1%
褥瘡者		1 名	0 名
身体拘束		1 名	1 名
看取り介護実施※		6 名 83%	5 名 100%

※看取り介護実施率＝看取り介護実施者/全退所
(急死除く)

【特養】

(単位:千円)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	28,032	29,085	27,795	28,471	28,143	28,581	170,107
平成 29 年度目標	28,782	29,074	28,121	29,055	29,200	28,051	172,283
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	29,711	28,108	28,598	29,559	26,725	28,783	341,591
平成 29 年度目標	29,033	28,209	28,785	28,587	26,123	29,063	342,083

※平成 28 年度実績の 2 月・3 月分は目標の数値です。

平成 29 年度 サンライフ土山ショートステイ

事業計画書（案）

今年度は職員 1 人 1 人の技術の向上を目指す。介護技術や接遇面はもちろんだが、サンライフ土山ショートステイにおいて、ケース記録記入が毎回同じような内容になり、必要なこと（特記事項など）があまり記入出来ていない状況にあるので、指導や研修を行い、ケース記録の充実を目指していく。収入面においては稼働率 97%を目指し、特養やデイ、ケアマネと連携を密にし、利用人数の増加を図る。

I. 職員の人材育成

(1)経験年数が少ない職員や技術不足の職員に対して介護講習を実施し、技術の底上げ・向上を図る。また、介助方法の難しい特定の利用者様には個別で指導を行うなどし、介助時の不安の軽減を行っていく。

(2)電話対応について、相手の名前や電話番号、内容などがメモできていなかったり、メモしても伝え忘れていたりということが見られるため、電話専用のメモ用紙を作成し、電話のすぐ近くに配置し記入漏れを防いでいく。電話対応が苦情につながることも多いため、意識の改革をおこなう。

(3)ショートステイの説明（料金や利用方法、送迎時間など）が家族様に説明できるように、月 1 回ユニット会議を行う際、短時間の研修の時間を作る。

(4)パソコンによるケース記録の入力の内容が、いつも同じような内容になっており、状態に変わりがあった時や、受診の内容、家族様とのやり取りなどがほとんど記入できていない状態であるので、出来ていない理由の把握を行う。また記録の入力の方法や、記入の時間の見直しを行い、内容の充実を図っていく。

II. 利用者情報の確認・更新

(1)新規の利用者様が利用する時に、ケース記録を見ずに介護をしてしまう職員がいる為、新規利用者様がいる場合はショートステイ内で申し送りをすることを徹底する。久しぶりの利用者様に対しても同様に行う。

(2)久しぶりのご利用や、ケガや病気などで状態が変わった時に、ケース記録のフェイスシート情報が更新できておらず、古い情報のままのことが多いため、状態が変わった時は、フェイスシートを更新するようにする。

(3)利用者様の情報が全体で共有できていないことが多く、知っていること、知らないことのばらつきが大きいため、班内の連絡ノートや、月 1 回のユニット会議を利用し、情報を個人でしまってしまうのではなく、班員で共有できるよう指導していく。また、その情報を利用者様のフェイスシートに記入していく。

Ⅲ. 感染症の防止

昨年度ショートステイで疥癬の利用者様が出た。介護職員・看護師が皮膚の異常に気づき早期発見が出来たため他利用者様への感染は出なかった。今年度も、入所時や、入浴時、更衣時などに皮膚状態を観察し、異常の早期発見に努めていきたい。また特養でインフルエンザが発生し、職員の欠勤が出たり、発症した利用者様の隔離やユニットの隔離対応などを行った。マニュアルによる対応により、速やかに収束させることが出来たが、今年度感染症を出さないためにも、感染症マニュアルの再確認と、周知徹底を行い、緊急時迅速に行動・対処できるようにしておく。

Ⅳ. 活力ある職場作り

(1)新規入社職員（非常勤も含む）には仕事に慣れるまでのフォローをするとともに、腰痛予防ベルトの配布や、見守りカメラにより職員の介護負担の軽減に努め、働きやすい環境を整えていく。

(2)勤続年数2年以上の職員に対しリフレッシュ休暇（5日程度）を取れるようにすることで、介護疲れの軽減、気分転換を図るとともに退職者の減少にも期待する。

(3)月1回のユニット会議で班全体の問題や悩みなどの話し合いをする場を設けるとともに、全体では話が出来ない、個々の抱える悩みや相談を聴く個別面談の場を毎月2人程を目安に設け、職員が一人で悩み追い込まれないような職場を作っていく。

Ⅴ. 収入・利用者様の確保

昨年度は月平均稼働率90.％を目標に業務に取り組み、無事目標を達成することが出来た。今年度は、月平均稼働率97％を目標とし、利用者様の確保に努めていく。利用者様を確保するために、営業活動の継続・強化と、契約できる職員の育成、利用者様満足度の向上によるリピーターの増加に力を入れていく。また、入院ベッドの使用や、ロング利用から特養入所へスムーズに繋げるために特養相談員や看護師と連携をとり、また、新規の利用者様を確保しスムーズに入所に繋げるためにケアマネやデイ、ヘルパーなど、他職種と連携を取り調整しながら、ベッドに空床が出ないように努めていく。

平成 29 年度の目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成 28 年度実績	2,582	4,354	3,896	3,947	4,265	3,422	22,466
平成 29 年度目標	3,634	3,930	3,634	3,930	3,930	3,634	22,455

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度実績	4,098	3,889	4,019	3,836	3,242	3,793	45,343
平成 29 年度目標	3,930	3,634	3,930	3,930	3,282	3,930	45,328

※平成 28 年度実績の 2 月・3 月分は目標の数値です。

平成29年度 特別養護老人ホームサンライフ土山(医務)

事業計画書(案)

利用者様の重度化が進み、看護職の役割もますます重要になっています。決められた人員配置の中で、介護職員と連携・協働しながら、質の高いケアの提供に貢献することが求められます。本年度は、医療・看護の立場で入居者の生活支援を、本人を中心に、家族様とともに考え、工夫していくというこを重点において取り組んでいきたいと考える。

I.医療・看護の立場で入居者の生活を支援する。

- ①どのような看護・介護を提供すれば、入居者様や家族の願いや希望を実現できるのかを、入居者様や家族、介護職員や他の職種とともに考え、工夫し、生活者の健康を守る立場からケアを提供す。
- ②日頃から、他職種との情報共有・チームケアを重視し、入居者様の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、介護度の重度化しないよう、病気が悪化しないようなケアや生活機能が維持できるよう支援していく。
- ③昨年度の入院延日数 511日に上り、稼働率は 97.6%であった。稼働率98%の目標に達していない。今年度も重度化する入居者様と家族とともに、入院回避に向けて取り組んでいきたい。
- ④昨年度のターミナルケアでの看取りは 5名であった。「土山の看取りケアの指針」をスタッフ間で共通理解しそのうえで家族が理解できるよう十分に説明する。看取りケアの充実と体制の構築を目指す。

II.安全管理

- ①事故、ヒアリハットの軽減に努める。誤服薬、転倒・転落・外傷予防、拘束廃止ケア、リスクマネジメントなど
転倒・転落は、深刻な問題のひとつです。転倒のハイリスク者をピックアップし、重点的に予防の対策をとっています。転倒の要因を取り除き、骨折しないようベッドサイドに衝撃吸収マットを敷いたり、離床センサーの活用、介護カメラ等体制を強化している。
- ②安全で確実な服薬ができる。

III.施設全体の健康を守る

- ①個々の入居者様の健康を守ることに加え、施設全体の健康的で安全な環境を確保し、健康危機の対策を行う。
- ②感染性胃腸炎やインフルエンザの発生の予防や蔓延の防止、発症者の状態管理を行う。昨年、インフルエンザに職員6名、入居者様4名罹患した。本年度は、発症しないよう予防に努める。
- ③施設全体の清潔保持や衛生管理に関する職員間の意識の熟成・共有し、入居者様の健康で安全な生活を守る。
- ④職員の健康の保持増進に配慮する。職員の腰痛予防のために必要な対策を考え、全体で取り組んでいく。

IV.業務の簡素化・効率化をはかる

入居者様の症状に対しての記録や生活を送る上で情報共有した方がよい内容等を記録している。他の看護師・介護士がみても一貫性看護・介護を提供することができる記録になれば継続して看護・介護を提供でき、入居者様の安全、安楽な生活につながる。しかし、決められた人員配置にて、記録に時間がかかるため合理化をはかる。

V.職員の知識・技術の向上

施設内研修を行い知識やスキルの向上をはかっていく。年間スケジュールをもとに実施を行う。5月バイタルサインについて（中元） 7月急変時の対応（梅野） 9月褥瘡予防（磯部） 10月感染症対策（梅野・中元） 12月看取りについて（磯部） 2月疾患について（古幸）

平成 29 年度 特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業計画書 (案)

昨年度は、誰も辞めることなく安定しており、課題であった味付けにおいても一定化とは言えないが、極端に味が濃い・薄い日は少なくなったように思う。また、人材育成に関しても 6 人中 4 人が条件付きではあるが通し勤務ができるようになってきている。しかし、慣れからか異物混入が数件起きてしまった。原因に対しては対策を行っており、今年度は異物混入が起きないように衛生管理を徹底していきたい。

I 味付け・献立について

昨年度に味の一定化を課題に調味料の分量を少しずつ修正してきたため、誰が調理してもある程度は同じような味付けで調理できるようになってきている。しかし、火加減や煮込み時間、調味料の順番等の調理方法の違いで味の染み込み方に差が出てきているように思われる。そのため、調味料を入れる順番や水から煮るのか沸騰してから煮るのか等の調理の方法を統一し、味のバラつきを少なくしていきたい。

また、献立に関しては旬の食材を使用するほか、行事食の充実を図ることで季節感のある食事の提供に努める。

II 衛生管理

昨年度は異物混入が数件起きてしまった。その対策として決めた、帽子の下にヘアークャップをかぶる、厨房に入る前に厨房着をコロコロする、調理前・調理後の包丁のチェックをする等を確実に実行し異物混入の防止に努める。

また、包丁・まな板の使い分けは、殺菌庫の上に貼った表を確認しながら使用している姿を目にするようになり、以前に比べ定着してきたが完璧とは言えない。その他、盛り付けを行っている手袋のまま他の物を触ってしまうということが現在も見られる。都度声掛けをすることで改善を図る。

III 厨房職員について

現在、調理員 6 名中 4 名が通し勤務ができるようになってきている。そのうち 2 名は、献立や一緒に組むメンバーを少し調整する必要があるが、急な勤務変更にも対応できている。

しかし、調理員の平均年齢が高くなってきており、思わぬ怪我や体調不良も予想されることから、重いものを無理して 1 人で持たない、できるだけ連続勤務を避ける等により、

長く働いてもらえるよう環境を整える。

IV 栄養ケアマネジメントについて

(人)

	低リスク	中リスク	高リスク
平成 29 年 2 月	38	30	2
平成 30 年 3 月	43	27	0

平成 29 年 2 月時点で、低リスク 38 名・中リスク 30 名・高リスク 2 名となっており、高リスクの内訳は大幅な体重減少が 1 名、褥瘡が 1 名となっている。

体重減少や褥瘡には高カロリーゼリーやジュース、高たんぱくゼリー等の栄養補助食品を使用し、介護職・看護師と連携しながら平成 29 年度は高リスクが 0 になるよう努める。

また、著しい体重増加も本人の負担となるため、飲み物をシュガーレスにする、おやつをハーフにする等、無理のない範囲から維持または減少に向けてアプローチを行う。

V 非常食について

オープンから 3 年が経ち、用意している非常食の多くが入れ替えの時期になってきている。廃棄処分になってしまわないよう、計画的に献立に組み込みことで無駄なく消費できるように努める。

また、入れ替えに伴い一部献立の見直しを行う。

現状では、用意している内容と保管場所・献立を入れたファイルを事務所に置いておくだけであり、非常食について周知されていない。また、災害時に厨房の職員が出勤しているとは限らないため、調理方法や何を使用するか等、誰もが見て分かるようなマニュアルを作成する。

平成29年度 デイサービスサンライフ土山

事業計画書（案）

今年度は、業務の効率化と利用者様意欲向上を図る。業務の効率化においては、限られた職員で、いかに協力しながら効率よく動くかが重要になる為、職員全員で見直しを行う。それにより、職員の負担軽減や利用者様と向き合う時間を増やし、サービスの質の向上、利用者様の満足度アップに繋げていきたい。職員の資質においては、まだまだ介護の知識・技術の不足が見られるため、研修を通じてスキルアップを図る。また、感染予防対策に力を入れるとともに、新たなサービスの取組みを行う。収入面では、営業活動を通じて、新たな顧客の獲得及びケアマネージャーとの信頼関係を構築し、利用者様増を図る。

I. 利用者様の意欲の向上

利用者様の意欲の向上を図る。契約時に聞き取れた情報をもとに、利用者様の趣味や身体状況に応じて、リハビリや個別レクの提供を図ることは出来ているが、業務に追われており、さらに利用時の状況の見直しが十分とは言えない。今年度は、モニタリングやケアの見直し、職員で利用者様一人一人の見直しを行い、土山の選択レクのレパートリー増加に繋げ、利用者様の意欲の向上を図る。内容としては、サービス担当者会議の前には、相談員・介護職員・看護師・入浴職員との話し合いを行い、ケアマネージャー・家族様に伝える内容を文書化し、密に連携を図っていききたい。利用者様個々の把握に関しては、朝礼時や夕方の反省会の時間に、業務の伝達、引き継ぎを行うだけでなく、毎回利用者様2人をあげ、常に現状を把握し、ケアの統一を図っていききたい。

II. 業務の効率化

昨年度は、業務の簡素化に取り組んだが、今年度は、業務の効率化を図る。デイサービスにおいては、9:00～16:30のサービス提供時間に、平均28名の方を受け入れている。限られた職員で、いかに時間の無駄なく、スムーズに業務を行うかが、重要なポイントとなる。送迎に関しては、渋滞を避け、いかに効率よく送迎を行うか、また、極力同一地域の方は、同じ時間帯に乗車して頂くよう、送迎ルートの見直しを図っていききたい。そして、今土山で一番の課題となっている入浴業務の見直しを図る。基本、入浴は午前中としているが、昼食の時間にまでかかってしまっていることがある。男性⇄女性の入浴入れ替えのタイミングや、利用者様の到着時間の把握、誘導、処置対応の時間等を再度見直し、業務の効率化を図っていく。

Ⅲ. 職員の介護技術の向上

昨年度、職員の介護技術の不足からの転倒事故が2件あった。その上で、再度、介護技術の向上を図っていく。特に、麻痺の方の移動介助（階段昇降時）や車椅子からベットの移乗、トイレ介助を中心に、介護技術の研修の実施を図る。研修を通して、書面で確認するとともに、実践研修を行う。また、土山全体での研修に参加し、スキルアップを図る。

Ⅳ. 感染予防の強化

デイサービス利用において、インフルエンザやノロウイルス等に集団感染する恐れがある。昨年度、インフルエンザを発症した方が、3名おられた。発生時のマニュアルの整備は出来ているが、発生時の対応だけではなく、感染予防の重要性を認識させられた。今年度は、インフルエンザやノロウイルスを持ち込まないようにするための予防対策マニュアルの作成を行っていききたい。

Ⅴ. 新たなサービスへの取り組み

今年度は、利用者様から「〇〇したい。こうなりたい。」という個人目標の聞き取りを行い、ひとり一人に合ったケアプランを作成し、目標達成に向けた支援を行う。目標は、長期目標期間1年と短期目標期間6か月で作成する。方法としては、レクの一環として、職員がお手伝いしながら目標を考え、用紙に記入する。記入した用紙は、氏名順にファイルに綴り、フロアで保管し、職員がいつでも閲覧・把握できるようにする。利用者様にとっては、明確な目標ができ、デイサービスにくる目的となる。職員は、利用者様の具体的な目標を知ることにより、目標達成に向け、希望に沿った個別サービスを考え、提供することが出来る。また、看護・介護職員により、介護予防の為の体操・運動を充実させ、リハビリやレクリエーションに取り入れ、要介護状態への進行を予防していききたい。

Ⅵ. 収入と利用者数の確保

昨年度に引き続き、土山の特養・ショートステイとの連携を活かし、利用者様の確保を図る。また、地域包括支援センター・居宅介護支援事業所への営業活動を行うと共に、ホームページの更新・フェイスブックを活用し、情報を発信することにより、土山の特色をアピールし、新規利用者様の獲得を行う。収入面においては、今年度は、定員35名より40名に変更することを目標とし、収入増に繋げていききたい。また、光熱水費等の節約により、支出の防止に努めていききたい。

土山研修計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護・医療研修	服薬介助について	バイタルサインについて	食事介助について	緊急時の対応	認知症について	褥瘡予防について
担当者	山岡	中元	中島	梅野	井神	磯部
介護講習	シーツ交換について	食事介助について	入浴介助について	排泄介助について	歩行について	福祉用具について
担当者	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木
ユニットリーダー対象	認定調査について理解	人員配置についての理解	収支についての理解	介護保険制度について	加算について	デイサービスの理解
担当者	宮崎	有本	山岡	宮崎	有本	高見
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護介護・医療研修	感染症について	体位交換について	ターミナルケアについて	虐待防止について	基礎的疾患について	電話対応について
担当者	梅野・中元・中野	八木	磯部	山岡	古幸	高見
介護講習	盲者・聾者について	移乗介助について	着脱介助について	座位について	事例問題テスト	事例問題テスト
担当者	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木	宮崎・山名・八木
ユニットリーダー対象	ユニット・従来特養の違い	入所基準について理解	ケアプランについて理解	機能訓練について理解	苦情対応について	見学対応実践
担当者	山岡	中野	宮崎	永井	中野	山岡

平成29年度目標利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	24.1	25.2	24.9	26.8	27.3	27.4	26.0/月平均
月合計(人)	618	656	648	697	736	713	4,068
平成29年度目標	30.0	30.4	30.8	31.2	31.6	32.0	31.0/月平均
月合計(人)	750	820	800	780	853	832	4,835

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	27.4	27.9	27.7	28.7	29.0	29.6	27.2/月平均
月合計(人)	711	725	748	717	696	799	8,464
平成29年度目標	32.4	32.8	33.2	33.6	34.0	34.4	32.2/月平均
月合計(人)	842	852	863	840	816	928	9,976

*平成28年度実績2月3月は予想で入れています。

平成29年度目標収入

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	5,040	5,196	5,016	5,386	5,729	5,601	31,968
平成29年度目標	5,541	6,065	5,917	5,764	6,305	6,149	35,741
差異	501	869	901	378	576	548	3,773

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	5,457	5,491	5,657	5,557	5,423	6,223	65,776
平成29年度目標	6,226	6,303	6,380	6,209	6,032	6,866	73,757
差異	769	812	723	652	609	643	7,981

*平成28年度実績2月3月は予想で入れています。

平成 29 年度 リハビリデイサービス サンライフ御立西

事業計画書 (案)

平成 29 年度 ささゆり会 経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」を元に、利用者様のニーズを把握し、適切にサービスを提供できるよう、職員の意識向上・知識の習得・介護技術の向上を目指すと共に、サービスのマンネリ化防止のため職員間での情報共有を図るとともに、積極的に業務改革を行う。

また、利用人数の増加を目指し、新規利用者様の獲得に向けて営業し、新規ケアマネへのアプローチを積極的に行う。

新たに平成 28 年 1 月より口腔機能向上加算を算定するようになり、今後加算算定できる利用者様が増加するよう、利用者様・家族様・ケアマネへの説明に努める。

I. 新規利用者数の確保

現在 1 日平均利用者数が 20 名程に留まっており、今後平均利用者数 25 名を目標に設定し積極的な営業活動を行い、月 5～6 件の契約を目指す。引き続き営業時にアセスメント報告の手渡しができるよう準備すると共に、当施設の特色が一目でわかる宣伝用チラシを作成し営業に活用する。新たに算定することになった口腔機能向上加算についても、デイサービスで口腔ケアを行っている施設がまだまだ少ないため口腔ケアの重要性が伝わっていない状況にある。そこで口腔ケアの内容がわかるチラシ等も営業用に作成し、営業時にしっかり説明し、新たなデイサービスの売りに出来るよう努める。

また、現利用者様のデイ利用時の状態をしっかりと観察し、家族様・ケアマネとの情報共有を密に行う事で、信頼関係を築き、新規利用者獲得に繋げる。

II. サービスのマンネリ化防止

(1) リハビリについて

目標をもって意欲的に取り組まれている方が少ないのが現状で、利用者様が個々で個別の目標を設定し、デイ全体がヤル気のある雰囲気となるよう雰囲気作りに努める。その為に身体を動かすリハビリテーションでは、「身体を動かすことが楽しいことだ」と感じてもらうことで効果が得られると言われていることから、他者(利用者様・職員)との交流を設けながら意欲的に取り組んで頂けるよう努める。また、リハビリ中はリハビリのメニューをこなすだけでなく、利用者様一人一人がどこの筋力をどういう風に使う、何の為になど意識してリハビリに取り組んで頂けるよう声掛けに工夫をする。

(2)体力測定について

3ヶ月に1度行っている体力測定については、看護師が測定・評価を行っており、それについて他職種や利用者様と話し合う機会が全く持てず、測定結果をケアマネや利用者様にお知らせするだけになっている。

また、3ヶ月に一度の測定が看護師業務の中でかなりの負担となっているため、本年度より測定の間隔を6ヶ月に1度とし、業務負担軽減を図るとともに、その測定結果の内容は（介護予防）通所介護計画書に反映させ活用したり、担当者会議等で活用していくよう努める。

(3)レクリエーションについて

現在午後から日替わりゲーム等のレクリエーションを行っているが、マンネリ化している現状もある。頭と体を一緒に使うようなグループで行うレクリエーションを新たに追加するよう検討する。

また、利用者様の希望で外出もして欲しい。というニーズもあることから、“リハビリ”という概念から離れない程度に外出も取り入れるよう検討する。

またボランティア等の受け入れも検討し、狭いスペースでも可能な活動も実施していきたい。

Ⅲ.サービスの質向上に向けた職員教育

前年度から引き続き職員の意識の差や、情報共有のバラつきで利用者様へのサービスに影響が出ていることがしばしば見られる。引き続き定期的に個別で行っているサービス内容や約束事項を把握できているかをテストし確認する。

さらに、情報共有のツールとして職員連絡ノートを活用しているが、それ以外にも話し合いの場が必要な場面も見られるため、余裕のある時に短時間で会議を開いて業務改善等の話し合いをする場を設けチームワーク向上を目指す。

また、忙しさのあまり職員目線でのサービス提供になっていることもあるため、職員一人一人が利用者目線で業務を円滑に行えるよう努める。

新たに口腔機能向上加算の算定をすることになったことから、職員一人一人にも口腔ケアを行う重要性をしっかりと理解してもらうために、短時間での内部研修を行い知識向上に努める。その上で、昼食後のうがいや歯磨き等のサービスに繋げていけるよう職員が口腔ケアに積極的介入していけるよう指導を行う。

職員の働きやすい環境作りについては、職員人数が増加し少し余裕が出てきているため、有休休暇を取得してもらい日々の介護疲れの軽減と、気分転換を図る。また、引き続き残業ゼロを目指し、時間の無駄がないスケジュールに随時変更していく。

平成29年度 予想利用人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	21.5	20.8	21.7	22.3	22.3	21.2	21.6/平均
月合計	560	541	565	581	603	553	3403
平成29年度目標	22	22.5	23	23.5	23	23.5	22.9/平均
月合計	550	607.5	598	611	621	611	3598

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
平成28年度実績	21.1	20.8	21.7	20.2	20.2	20.2	
月合計	548	542	585	506	485	546	
平成29年度目標	24	24.5	25	24.5	25	25.5	24.75/平均
月合計	624	637	650	612.5	600	688.5	3812

※H28年2月、3月は予想です。

平成29年度 目標収入

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年度実績	4,313	4,137	4,278	4,502	4,525	4,353	26,108
平成29年度目標	4,175	4,653	4,575	4,680	4,739	4,655	27,477
差異	-138	516	297	178	214	302	1,369

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	4,215	4,291	4,502	4,081	3,918	4,407	51,522
平成29年度目標	4,763	4,857	4,964	4,656	4,554	5,280	56,551
差異	548	566	462	575	636	873	5,029

※H28年2月、3月は予想です。

平成29年度 サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

年間目標

- ・利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って適切な保健医療サービス・福祉サービスが効率的に提供されるよう配慮する
- ・情報の提供、サービス利用などの相談支援を行っていく。

I. 特定事業所集中減算の回避

開設初年度から特定事業者集中減算回避に向けて対策を行いながらも介護支援専門員の中立、公平の立場で利用者、家族がここのサービス事業所を利用して良かったと思って頂ける事業所の紹介が出来るようにする。

II. サービスの質の向上

(1) 他職種、他事業所、地域との連携

他事業所、他職種との連携をとり利用者様にとってよりよいサービスが提供できるようにする。必要時には主治医への連絡も行ない、地域の民生委員や地域包括支援センターとの関わりを密にする

(2) 専門知識の向上

常に情報を取得するため、兵庫県 姫路市主催の公的な研修については積極的に参加する。研修会での配布資料の内容や情報は事業所内で共有し専門知識の向上に努める。

外部研修	介護支援専門員専門研修・・・公募後 対象者全員 包括的・継続的ケアマネジメント支援研修・・・年間4回 全員 兵庫県・姫路市など主催の研修会・・・開催時 その他案内等によるもの・・・開催時
内部研修	倫理、個人情報保護に関する勉強会・・・ 全員 情報の収集・共有・・・随時 全員

III. 個人情報を含めた情報管理の徹底

マイナンバー導入により居宅介護支援事業所が扱う書類にもマイナンバーの記入欄が付けくわえられているものもある。要介護認定更新などの手続きをスムーズに行う事ができるようにであろうと考えているが申請代行を行う事もあるので今まで以上にマイナンバーに限らず情報管理の徹底に努める。

IV. 介護予防支援

総合事業への移行や軽度者のサービス利用に関する正確な情報を把握し
 地域包括支援センターより委託を受けた利用者に適正なサービスが提供出来る
 よう努める。地域との繋がりが重要となる中で各地域包括支援センターとの
 連携を図り、住み慣れた地域での安全で安心した生活が継続出来るよう支援する

V. 年間収入の予測

<総収入 予想>

(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
平成29年度目標		722	750	760	794	804	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度目標	828	838	845	855	865	883	8,944

<介護予防支援費 委託受入予想>

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
	33	37	37	41	41	189
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
41	45	45	41	41	41	443

<訪問調査 委託受入予想>

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
	3	5	5	2	2	17
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6	4	5	5	3	2	42

<年間利用者数の予測>

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援		9	10	10	11	11	11	12	12	11	11	11
要介護		60	64	65	67	68	69	70	72	73	74	77

特別養護老人ホームサンライフ魚崎

平成29年度事業計画書（案）

今年度は、入居者様の心身の状態の重度化に伴い、直接介護業務を中心に全体的な業務の見直しを行う。今入居者様にとって何が大切なのか、無理・無駄は無いかを全職員で考え、意見を出し合い、実行していく。又、スローガンである「活力ある職場」を目指し、それぞれの職員がやりがいを持って働けるシステムを構築する。

I. 活力のある職場作りへの取り組み

(1) 職員育成の見直し

- ①これまで取り組んできた、各年代職員を配置したグループ型の育成方法から、3～4年目の職員中心の育成指導者と育成対象者がマンツーマンで行う育成に変更し、はっきりとした役割と責任を持たせる事で、双方のレベルアップを図っていく。
- ②随時の指導と共に、月1回育成担当者と育成対象者が育成プログラムやチェックシート等を用い、話し合いを行う。
- ③2ヶ月に1度、相談員・リーダー・育成担当者と会議を行い、各自の課題や指導方針、進行具合等の情報の共有を行う。

(2) 介護業務全般の見直し

入居者様の心身の状態の重度化に伴い、直接介護業務の負担が大きくなり職員の気持ちに焦りが見られている。特に排泄・食事介助は、入居者様それぞれのあった介護方法を再度検討する事により、より入居者様と関わる時間が作れるように他職種を含め全職員で検討していく。

(3) 介護の専門家としての意識の向上

- ①3～4年目職員に対し、施設委員や外部研修参加等、中心的な役割を担う様に配置。役割を持たせる事で主体的に考え動く意識を養っていく。
- ②高齢者虐待防止に関する部署内研修を年1回実施し、意識の向上を図る。
- ③半年に1度他部署研修を実施。職員各自が業務やケア等について客観的視点で観察し、疑問や課題、吸収したい点等、自分で考える場を積極的に設ける事で、介護力の向上を図る。

(4) 他職種との連携強化

- ①看護師・ショート相談員と月1回話し合いの場を設け、現在の介護・看護の状態や、入所関係等お互いの状態を密に話し合い、連携をとっていく。
- ②口腔ケア・医療的ケアの会議をまめに行い、多職種との連携を強化していく。

1. 経営の安定化への取り組み

(1) 年間稼働率目標値99%以上への取り組み

- ①毎月1名以上面接を行い、入所検討委員会を開催。入所適応者に対し、健康診断を依頼し、常時男女共に2名以上の次期入所者確保を行う。
- ②ショートステイと連携し、常時ロングショートの確保を行い、ショートステイ利用からの特養入所に向けて動く。面接も可能な限り両相談員で訪問し、情報を共有しておく。
- ③長期入院者に対し、家族や病院への早めのアプローチを実施。ショートステイ等の利用も含めた一時退所等も含め、早めの働きかけを行うものとする。

(2) 平成29年度収入目標

(単位 千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
平成28年度実績	11,821	12,132	11,772	12,197	12,248	11,745	71,915
平成29年度目標	11,900	112,300	11,900	12,300	12,300	11,900	72,600
前年度との差異	79	168	128	103	52	155	685
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	12,138	11,745	12,164	11,747	10,192	11,687	119,709
平成29年度目標	12,300	12,300	12,300	12,300	11,000	12,300	145,100

平成28年度2月・3月は収入見込み

- (3) 施設管理委員を中心に、物品コスト削減だけでなく、エアコン稼働時間等電気や水道費削減対策、物品修繕等、職員自ら考え決定していく体制を作る事で、介護だけでなく施設生活全体を意識したサービスを提供する力を養う。

2. 事故・褥瘡及び感染症対策

- (1) ここ数年増加の一途を辿っている。特に内出血・表皮剥離の事故が増加しており、介護方法の検討と共に、使用している物品の確認を行う。
- (2) インフルエンザ・ノロウイルス等の感染症の発生予防・拡大防止の為の知識・対応力を向上させる事を目的に、感染症対策委員・看護師を中心に初期段階よりの確な対応ができるよう、職員に対し感染対応マニュアルに沿った実施訓練を10月に実施する
- (3) 褥瘡に関しては0件をめざし、褥瘡対策委員・看護師を中心に「予防」に力を入れていく。

3. その他

- (1) 職員の心身のリフレッシュを図る為に、各職員が3日程度の休みが確保出来る様に配慮する。
- (2) 昨年に引き続き、新しい福祉用具の情報を入手し、積極的に取り入れる事により、安全な介助・腰痛予防ができるようにする。

特養活動計画						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
育成	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議
	指導者会議		指導者会議		指導者会議	
研修			他部署研修	看取り研修		
他職種との連携強化	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議
	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議
		看取り医療的ケア会議				
入所者確保	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議
	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育成	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議	担当会議
	指導者会議		指導者会議		指導者会議	
研修	感染対応研修	高齢者虐待研修	他部署研修			
他職種との連携強化	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議	リーダー会議
	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議	口腔ケア会議
		看取り医療的ケア会議			看取り医療的ケア会議	
入所者確保	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議	入所検討会議
	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名	面接 1名

以上

平成 29 年度魚崎高齢者介護支援センター（短期入所生活介護）

事業計画(案)

今年度は、利用者様の継続的な確保、職員の育成、快適な生活を支えるサービス提供の強化として、既存の業務、サービスに囚われず、定期的に評価し、生産性を改善していく。

年間計画を策定。それに沿いつつ、実施・評価・改善を継続的に行い、活発な意見交換を行う事で、無理のない活力ある職場環境を提供構築していく。

I. 活力ある介護現場の推進

前年度に引き続き、年間育成計画の元、全職員が関わりを持ち、指導する側・指導される側双方のレベルアップを図る育成プログラムを実施。中堅職員に責任ある明確な役割を任せる事で、考え、発信し、決断する力を養っていく。

又、年間計画を策定し、既存サービスや業務等の評価、改善を継続的に行い、実施する事でより良いサービスを提供していく。

(1) 職員育成の強化

- ・ 前年度と同様、新入職員に対して指導担当職員を配置。年間育成計画に基づき必ず毎月 1 回、新入職員と指導担当職員の話し合いができる機会や接遇、介護知識に関する試験等を行う。2～3 年目の職員に対しても指導担当職員を配置し、同様に年間育成計画に基づいた育成を行う。
- ・ 各職員の中で、あやふやであった各委員、係り、ロングショート利用者担当等についての役割、責任、仕事について、3 月末担当の引き継ぎ前に、相談員、リーダー、前担当を中心に見直しを行い、今一度役割や責任について明確化。
4 月より 2 年目以上の職員に任せていく。偶数月 SS 会議では、各現状報告会議を行い、継続的に考え、発信し、責任を持って決断していく力を養っていく。
- ・ 毎週金曜日の午後申送り後に、ミニ会議を実施。事前に議題提案者を各職員で割り振り、課題を見つけ、変えていく力を養うと共に、職員同士の発言し議論する力も身につけていく。
- ・ 週 2 回午後申送り後に、各職員持ち回りで、話し役、聞き役、質問役を明確にし、一言スピーチを実施。自らの最近あった出来事等、様々な事につ

いて発表を行い、それに対して他職員が質問する等を行う事で、普段から議論を出来る関係性を構築していく。

- ・ 2か月に1回偶数月に、職員会議を開催。各委員会等からの報告や提案、業務評価や見直し、情報共有や議論の場とする。

(2) 効率的で無理のない業務への評価、見直し

- ・ 4・7・10・1月の第1週目にて、各業務担当1日の流れを調べる書き込みアンケートを実施。1週間で、実際の業務がどのように流れたのかについて、目に見えるデータとする事で、相談員、リーダーを中心に評価を行い、無駄な部分や上手くいっていない部分等を浮き彫りにする事で、見直しや指導を行っていく。
- ・ 3月末までに、アンケートや会議、話し合い、レクリエーション等について、年間計画を作成。それに沿いつつ行う事で、継続的、効率的に行える様実施していく。
- ・ ショートステイ荷物管理業務で、アイパッドを導入。以前の、手書きチェック等の削減や荷物の紛失を少なくする事、手間となっていた居室移動も予約段階で極力少なくなる様調整し、SS業務の無駄を省いていく。
- ・ 古美術や抱えない介護等の内部及び外部研修や福祉用具を活用し利用様・職員双方に負担の少ない介護方法を積極的に取り入れる。

II. 個々に合わせた快適な生活への取り組み

(1) 個々に合わせた環境作りの継続

- ・ 長期利用者に対し、生活全般のサービスを看ていくロングショート担当を配置。利用者様が快適に過ごす事が出来る様、ケアの発案やサービスの立案等も含め、責任を持って行っていく。

(2) 充実したレクリエーション

- ・ 余暇活動委員を中心に、年間活動計画を作成。従来の同じ画一的レクリエーションだけではなく、季節感を踏まえ、準備から実施まで利用者様が中心に行えるレクリエーションを提供していく。
- ・ 地域包括等とも連携しつつ、様々な種類のボランティアを活用していくと共に、ボランティアを招く上での接遇面の方法を、余暇活動委員を中心に発信していく。

III. 事故予防対策の強化

各職員が利用者様の状況や対応方法等について、情報を共有する事が事故予防に繋がっていく。

情報共有しやすい環境を整え、事故対策及び事故予防を行っていく。

- ・ 4・8・12月に事故防止委員会を中心にヒヤリハットの活用、事故がどのような状況や場所等において起きているのかを数値化。各職員にも、分かりやすくどこに注意すれば良いか、はっきりさせる事で事故防止へと繋げる。
- ・ 利用者様個々の状態変化に気を配り、些細な変化においてもケース入力を行う。
- ・ 複数利用者様対応時の優先順位、センサー使用者、歩行の見守り又は付添い歩行での対応の区別について、見直しを定期的に行う。

IV. その他

- ・ 出来るだけ連続した休暇が取得出来る様、調整を行い、有給休暇の取得を促していく。また、有給休暇取得率として数値化する事で、少ない職員へ取得していける様、アプローチを行っていく。

V. 日中利用者数目標

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績見込み	524	553	603	602	601	606	640	656	644	671	629	655	7,384
平成29年度目標	651	672	651	672	672	651	672	651	672	672	607	672	7,915

- ・ 平成28年度2月3月は利用者数見込み
- ・ 日中利用者数1日あたり、平均21.7名を目指す。
- ・ 入退所業務負担軽減の為、ロング・準ロングを10名程度と次期ロング確保を目指すし、特養相談員と連携しつつ、面接を実施していく。そして、ショートから特養へのスムーズな特養入所システムを構築する。
- ・ 前年度に引き続き、利用者獲得年間活動計画を立て、毎月計画的に実行することで利用者様獲得・確保を行う。

VI. 平成27年度の目標収入（介護職員処遇改善費含む）

単位（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平成28年度実績	6,029	6,213	6,889	6,816	6,746	6,991
平成29年目標	7,456	7,546	7,420	7,593	7,534	7,503

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	7,370	7,588	7,666	7,991	7,200	7,500	84,999
平成29年目標	7,728	7,525	7,996	7,996	6,944	7,694	91,025

- ・ 平成28年度2月、3月は収入見込み

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所 医務

平成 29 年度事業計画書（案）

平成 27 年度より、看護師の新入職が続いたことに伴い、看護師業務の簡素化を行ってきたが、特養入所者様・ショートステイ利用者様の超高齢化、介護度の重度化が確実に進んでいることで看護必要度も上がってきている。その中で、看護の質の維持・向上を推し量りながら、業務改善、20%縮小削減を目指したいと考える。

I. ショートステイ利用者様の入所中の看護介護業務の削減を検討する。

- (1) 新規利用者様の増加に伴い、持参薬の確認作業に時間を要している。内服薬を持参される方、変更があった場合には薬情を準備いただける様、改めて文書で協力依頼する。また場合によってはケアマネージャーの協力を得られるよう相談員とともに働きかける。
- (2) 点眼薬を持参される方、複数本持参される方が増えている。ご家族へ可能な限り自宅での対応を文書にて協力依頼し、理解いただくことで点眼業務の短縮を図る。
- (3) ご家族への説明・了承を得た上で内服薬の一包化をそれぞれの主治医、薬局に氏名・服薬時間の表示を薬局へ直接依頼し、協力を得る。
- (4) ロングステイの利用者様の内服薬は余裕を持って 1 週間分はストックできるように、又処方日ができる限り重ならないよう処方依頼を徹底する。

II. 特養・ロングステイ利用者の処置の削減を図る。

- (1) GE・摘便の頻度が増えている。介護職と協力し具体的な排便状況を観察評価し、内服薬での排便コントロールを図る。
- (2) 褥瘡予防に対しての意識向上、体調不良時の体位交換や除圧マットの使用をこまやかに介護職と相談・対応していくように積極的に働きかける。
- (3) 申し送り時にその日の入浴対応やタイムスケジュールを確実にこまめに介護職に伝え、お互いに無駄の無い動きができるように情報交換する。

III. 事故予防に努める。

- (1) 誤嚥・窒息予防の為、食事の摂取状況や座位姿勢等の観察を行い適した食事が提供できているか介護職との相談評価を変化に応じて早期対応できるよう努める。
- (2) フロア座位中のズレのある利用者様にはその場で座りなおしを介護職と共に積極的に行い、見過ごすことの無いよう配慮する。

IV. 看護職の勤務時間帯の変更を検討する。

- (1) 複数で業務できる時間を少しでも多く取れるよう、遅出の業務時間帯の変更を試みる。
- (2) 全員朝礼参加を基本としていたが、看護師最低 1 人（基本遅出担当者）は現場に残り、ショート入所対応等、業務を中断せずに遂行する。

平成29年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業計画書（案）

今年度のデイサービスは、運営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実現するため、前年度行なえなかった個別レクへの取り組み、その方に応じた生活リハビリの取り組みを用意し利用者様お一人お一人にあったサービスを行い、細やかな気配り、心配りができるように努める。少しの時間でも散歩や外出の時間・機会を設け、外へ出かける楽しさを感じて頂く。また、引き続き利用者様の獲得に全職員で取り組み、ちらし作りや営業活動を行う。

職員1人1人が意識して業務の見直しを行い、残業ゼロを目指す。また、職員のリフレッシュ休暇を取得し、職員同士明るく助け合いメリハリのある職場環境作りに取り組む。

I. 個別レクの取り組み

午前中の作業レクリエーションを今までは、作成する物を決めて作成して頂いていたが、作業レクのバリエーションを増やしこちらが内容を決めて提供するのではなく、必要物品をそろえておき、本人様に選んで頂く。

《作業レクリエーション内容（案）》

- ・塗り絵（カレンダー・月ごとのイラスト・季節のイラスト）
- ・計算問題　・間違い探し等の脳トレ　・習字（水で書けるタイプのものを用意）
- ・手芸（編み物・縫い物）　・絵画

II. 利用者様獲得計画

日々の利用者数30名を目標とし、1ヶ月の利用者数を一般型690名、予防型90名目標とする。

(1) 利用者獲得に向けての具体的取り組み

- ① 毎月1日に事業所回りを実施（18事業所）。昨年度事業所へ回れなかった、芦屋や六甲方面（3事業所）の事業所にも2か月に1度訪問し営業を行う。
- ② 毎月、サンライフ魚崎居宅介護事業所と魚崎北部あんしんすこやかセンターへ利用状況の報告書を提出する。
- ③ 居宅、あんすこ、ショートステイとの意見交換を2か月に一度運営会議終了後30分程度行い、利用状況の確認、新しい取り組みの報告、新規利用者様の依頼を実施する。

Ⅲ. リハビリの実施

(1) 利用者様・家族様・ケアマネージャーからの希望がある方、必要性がある方に対しては、引き続き個人に合わせた個別機能訓練を実施。

①個別機能訓練の用紙には長期目標・短期目標を記載。3か月に1回看護師・介護士により評価を行う。

②実施内容・実施回数・実施時間・担当者を記載し、1ヶ月ごとに利用者様・家族様・担当ケアマネージャーへ配布する。

(2) 午後からのレクリエーション実施の前に、セラバンド・体操のDVDを使用し、集団（20人～30人）で体操を毎日実施。

Ⅳ. 外出・散歩の充実

年間で外出・散歩の計画を立て、実施する。外出の際の出欠の確認用紙配布時期も年間予定の中に組み込む。外出のない月は散歩月間とし「散歩実施表」を作成し1日3～4名近所の公園等散歩へ行って頂く。

(1) 年間外出・散歩予定（案）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
桜ドライブ	バラ園外出	散歩月間	散歩月間	買い物外出	散歩月間
10月	11月	12月	1月	2月	3月
遠足	遠足	買い物外出	初詣で	梅見ドライブ	桜ドライブ

Ⅴ. 人財育成・職員研修

年間で全職員が外部研修への参加を目標とする。

・研修内容…認知症研修・中堅職員研修・メンタルケア研修・虐待研修
接遇研修・レクリエーション研修

Ⅵ. 業務削減

(1) 毎月の誕生日紹介の壁紙の作成を取りやめ、ホワイトボードを用意し貼りだすのみにする。誕生日カードも月ごとにフォーマットを作成し、写真・氏名等の入力のみで出来上がるようにする。

(2) 毎月の事業所への報告書をほのぼのから編集していたが、編集せず、記録をそのままコピーし提出する。

(3) 現在の手書きの利用者様の連絡帳を廃止し、ほのぼのの連絡帳に変更する。個人用ファイルを用意し、連絡帳をプリントアウトし利用ごとにファイリングを行う。

(4) 業務削減に関して職員は常に意識し、2か月に1回の話し合いの際には発言をするようにする。

Ⅶ. リフレッシュ休暇・残業ゼロへの取り組み

- (1) 職員の連続休暇を5日間連続で取得できるようにする
- (2) ノー残業デーを毎週土曜日とし、仕事とプライベートのメリハリをつけ、無理なく長く仕事が続けられるような環境を作る。

平成29年度目標人数 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H28年	696	717	716	716	760	741	
月平均	26.7	27.6	27.5	27.5	28.1	28.5	
H29年	728	756	733	735	764	741	
月平均	28	28	28.2	28.3	28.3	28.5	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年	722	739	750	678	660	750	8,645
月平均	28.5	28.4	28.8	28.3	27.5	27.8	
H29年	741	743	750	691	693	777	8,852
月平均	28.5	28.6	28.8	28.8	28.9	28.8	

※平成28年度2月、3月は見込み

平成29年度目標収入 (単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H28年	6,393	6,263	6,517	6,706	7,171	6,914	
H29年	6,430	6,618	6,671	6,884	7,208	6,914	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年	6,734	6,800	6,921	6,215	6,057	6,633	79,324
H29年	6,908	6,837	6,920	6,344	6,345	6,871	80,940

※平成28年度2月、3月は見込み

平成 29 年度フレール魚崎中町（認知症対応型共同生活介護）

事業計画書（案）

入居者様の重度化と人員不足により職員への負担が増大となり、業務に追われていたが、入居者様の入れかえ等実施した為、今年度は入居者様のできる事や、やりがい作り散歩や日光浴・楽しみ作りに積極的に取り組むことにより、職員も楽しく活力ある職場環境となるよう、取り組んでいく。

I. 職員の質の向上

常に人員不足で質の低下・職員の意欲の低下に繋がっている為、人員が安定するよう、業務の削減・改善をおこなう。又、指導・研修・仕事の割り振りが出来ていない為、正職員としての役割・責任感・意欲の向上に向けてシステム強化に努める。

- (1) ・居室掃除は基本 2 日に 1 回実施（月水金・火木土で 1 日 4 部屋ずつ。日曜なし。）
 - ・家族への手紙の簡素化
 - ・ケース記録記入方法の見直しと徹底。項目と記号の活用・簡潔にわかりやすい記入方法の指導。
 - ・献立・食材発注の簡素化（極力前年度のものを使用）
 - ・お好みメニュー日は 1 日分を各自が発注書に作成。（一人にかかる負担を分担）
 - ・極力各誕生日当日にお祝いをしてしたが、誕生日会を月 1 回にする。
- (2) 正職員の仕事の割り振りを行い、責任感・意欲の向上に努める。各仕事のマニュアル・チェックシートを作成し、仕事の共有・効率化を目指す。
- (3) 考察力と全職員の責任感向上の為、月に一回ケアカンファレンスを実施し個々のニーズに対応。正職員が月末までに主任に提出。職員会議にてケアの統一を図る。対象者のケアプランは月初め 5 日を期限とする。
- (4) 入居者様の生活に合わせた介護・業務となるよう、グループホーム会議を 2 カ月に 1 回行い、見直し・改善・ケアの統一を行う（個々の勝手なケアをなくす）
- (5) 基本理念・法令遵守・介護職員の心得など、定期的に全体会議や内部研修・職員会議にて指導を行い、再認識に努める。
- (6) コミュニケーション力（目線・触れ合い・思いが繋がる会話）研修を職員会議で実施し、認知症ケアの専門性を高め、職員同士の関係も円滑になるよう取り組む。
- (7) 虐待防止について職員会議で毎回確認・認識を行う。職員同士で注意し合える環境作りに努める。
- (8) 認知症の研修に年間 2 人以上参加する。他部署の研修に参加させてもらう。
- (9) 新人指導時最低 1 カ月は担当者がついて指導。退職者が出る際の人員確保が課題。

II. 活力ある職場作り

やりがい・責任感・達成感を持って取り組んで行けるよう、チームワーク力を高め、皆で働きやすい環境づくりをおこなっていく。又、入居者様の楽しみごとややりがい作りへの取り組みにより、職員の楽しみややりがいに繋げる。

- (1) フロアリーダーを配置し主任と連携を取る。(2か月に1回正職会議実施)
職員の意見を引き出し、より良いケア・個別ケアに向け取り組んでいく。
- (2) 各フロアで毎月目標を掲げ取り組む。
- (3) 月に1回育成チェックシート実施。振り返り、課題をみつけ意識改善に努める。
- (4) 入居者様のできる事や、やりがい作り・散歩や日光浴・楽しみ作りに積極的に取り組むことにより、職員も楽しみをもって仕事に取り組めるよう、職員の姿勢・考え方の改善に取り組む。
- (5) ぎりぎりの人員配置で介護業務以外の仕事に費やす時間がなく、新規入居者確保や退居に向けて、主任業務・事務等はほぼ時間外の為、人員を1.5人増やす。
- (6) 気持ちのゆとりを持って働けるよう、メンタルヘルスの講師導入や人員調整・業務調整にて職員の心身の健康管理に努める。連続休暇をとり、心身の健康を図る。腰痛予防の為毎日体操実施。無理のない介助方法を会議で話し合い実践。
- (7) 個人面談を年に1回以上行う。
- (8) 高齢職員もいる為、事故予防に努め、個々の勤務形態の見直しなども適時行う。
- (9) 時間外とならないよう、個々がけじめを持って働ける環境づくりを行う。
お互いが声をかけあう。
- (10) 接遇研修を通じて楽しく働ける環境作りに努める。また、親睦会や互助会活動を通じて、職員同士のコミュニケーションをはかる。

III. その他

- (1) 新規入居者確保業務や入居判定会議に費やす時間が持てていない為、職員を安定させ、常に入居候補者の確保業務を行い、退居時早期入居できるよう取り組む。
- (2) 散歩に行く機会が減っている為、職員の意識改善。散歩や廊下歩行・日光浴を実施。毎日の体操・足体操の継続。
- (3) 高齢の職員・体調面で心配な職員がおり、急な退職や欠員が懸念され、人員を確保したい。非常勤のフルを確保したいが、短時間の勤務体系等も考え確保したい。
- (4) 積極的なボランティア導入により、楽しみ作りと共に職員負担の軽減を図る

IV. 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	接遇強化 正職員仕事割り振り・指導 外出散歩強化	接遇強化 外出散歩強化	接遇強化 正職仕事のマニュアル作成 食中毒予防	接遇強化 食中毒予防	事故防止 育成チェックシート作成 熱中症予防	事故防止 熱中症予防
研修・会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議
待機者確保		待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	接遇強化 正職員仕事指導の評価 外出散歩強化	感染症予防 外出散歩強化	感染症予防 育成チェックシートの評価 見直し	感染症予防	事故防止	接遇強化 指導・育成の評価
研修・会議	正職員会議 担当者会議 家族会	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議	正職員会議 担当者会議	職員会議 担当者会議
待機者確保	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理	入居判定会議	待機者情報整理

V. 年間稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H28 年度実績	97%	94%	100%	98%	93%	99%	100%	100%	97%	93%	93%	100%
H28 年度目標	97%	97%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	98%	96%	97%	100%

VI. 平成29年度 目標収入

(単位千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H28 年度実績	4,990	4,940	5,079	5,004	4,989	4,752	
H29 年度目標	5,100	5,150	5,100	5,300	5,350	5,050	
前年度との差異	110	210	21	296	361	298	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28 年度実績	5,344	5,080	5,303	4,962			
H29 年度目標	5,350	5,100	5,350	5,050	5,000	5,200	6,300
前年度との差異	6	20	47	88			

以上

平成 29 年度 介護型ケアハウス サンライフ魚崎

事業計画書（案）

他施設との競争により、入居者様の確保が困難になってきている。計画的に入居案内を行うことで入居者様を確保し、安定した収入を確保することを意識して運営することが必要になる。

中堅職員が結婚等で複数名退職したことに伴い、経験の浅い職員の比率が高くなる。入居者様の重度化も進んできているため、介護の質が低下しないよう、基本的なケアを丁寧に行う事を心がけながら、活力ある職場創りをめざし、生産性を上げるべく、職員の負担が過度にならないように業務内容の見直しを図っていく。また、勤務年数に応じた育成研修への参加を通じて知識・技術・接遇などの向上を目指す。

I. 人材育成

- (1) 2年目以降の正職員全員が複数フロアの業務を行えるよう勤務を調整することにより、フロア間の応援体制の強化と勤務の柔軟化を図り、特定のフロアや職員に過度な負担が生じないようにする。
- (2) 育成委員会が開催する研修に参加し、知識・技術・接遇面でのスキルアップを図る。
- (3) 各職員が年間目標を設定して業務に従事する。相談員・リーダーと職員の面談機会を年2回（5月・11月）設け、目標の進捗状況を確認する。
- (4) 正職員は全員1回以上外部での研修に参加する。
- (5) 実習生の受け入れを積極的に行う。指導することの難しさを経験することにより、業務内容の根拠や目的の再確認、改善提案等に対する気づきの力を向上することができるようにする。
- (6) 介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員の受験資格を有する職員は対策講座を受講し、資格取得を目指す。

II. 入居者様確保

- (1) 年間活動計画に基づき、入居案内の送付や事業所への訪問を定期的に行う。
- (2) 主治医と連携し、早期対応により入院期間の短縮を図る。入院中は相談員が定期的に面会や家族様への状況確認を行い、早期に退院できるようアプローチを行う。
- (3) ショートステイ・デイサービス・サンライフ住吉川の責任者との連携、情報の共有化を図り、入居者様・待機者の確保を行う。

Ⅲ. 活力ある職場づくり・業務改善

- (1) 身体的・精神的に過度な負担が生じないように、間接業務について見直しを行い、ゆとりを持って入居者様へのケアに従事できるようにする。(4月より)
 - ・ 委員会組織体制の見直しによる役割の平均化、開催頻度の見直しを図る。
 - ・ 誕生日プレゼントの廃止、お祝いカードのPC作成化、ケーキの外注廃止(厨房発注への変更)を行う。
 - ・ 行事やクラブ活動の年間スケジュール作成、内容の統合化、企画書及び報告書の簡素化を行う。
 - ・ かわら版(広報紙)の発行回数変更(毎月→年4回)、内容の見直し(担当職員からのコメント廃止)を行う。
- (2) 相談員・リーダーは職員とこまめにコミュニケーションを図り、体調不良や悩み事があれば早期に解消できるようにする。
- (3) リーダーが中心となり、3ヶ月毎のフロア目標を設定する。相談員・リーダー会議の中で目標の達成度や課題についての話し合いを行い、各フロアが競争意識を持てるようにする。
- (4) 全体会議及びフロア会議を隔月で開催し、情報の共有化を図る。
- (5) リフレッシュ休暇(3日～5日程度)を各職員が取得できるよう、勤務調整を計画的に行う。有給休暇の取得が少ない職員に対しては取得を促し、可能な限り公平に休暇が取得できるように配慮する。
- (6) 必要に応じてメンタルカウンセラーへ助言を求め、職員のストレスが軽減できる取り組みを行う。

Ⅳ. その他

- (1) 感染症(インフルエンザ・ノロウイルス・疥癬等)の発生防止に努める。内部研修により、危機意識の向上と対応方法の確認を行う。
- (2) 介助方法や業務内容の見直しにより、事故発生件数の10%削減を目指す。
- (3) 職員の介護負担軽減・腰痛予防の為、福祉用具の活用について検討を行い、必要に応じて導入を行う。
- (4) 開設より10年以上が経過し、設備・備品の不具合が増えてきているため、計画的な修理・更新を行うことで快適な生活環境・職場環境の維持に努める。

VI. 年間活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	腰痛予防	事故防止	接遇強化	腰痛予防	熱中症予防	事故防止
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	全体会議	フロア会議 職員面談	全体会議	フロア会議	全体会議	フロア会議
利用者確保	案内状配布 (事業所持参)	案内状送付	案内状配布 (事業所持参)	案内状送付	案内状配布 (事業所持参)	待機者情報 更新
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	接遇強化	感染症予防	感染症予防	感染症予防	事故防止	接遇強化
研修・会議	相談員・リーダー会議					
	全体会議	フロア会議 職員面談	全体会議	フロア会議	全体会議	フロア会議 新入職員研修
利用者確保	案内状配布 (事業所持参)	案内状送付	案内状配布 (事業所持参)	案内状送付	案内状配布 (事業所持参)	待機者情報 更新

VII. 年間稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成28年度 (実績)	94.7	94.0	97.7	98.8	99.7	96.7	93.7	94.2	94.1	96.3	(94.0)	(96.0)	95.8
平成29年度 (目標)	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	97.5	97.5	97.5	98.3

VIII. 収入目標

単位：千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計
H28年度実績	18,057	18,442	18,610	19,395	19,857	18,024	112,385
H29年度目標	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	115,500
前年度差	1,193	808	640	▲145	▲607	1,226	3,115
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
H28年度実績	18,232	18,240	18,726	19,170	(18,700)	(19,000)	(224,453)
H29年度目標	19,250	19,250	19,250	18,750	18,750	18,750	229,500
前年度差	1,018	1,010	524	▲420	50	▲250	5,047

以上

平成 29 年介護型ケアハウス サンライフ魚崎医務室

事業計画書（案）

サンライフ魚崎の 29 年度経営スローガンは、「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」である。平成 29 年度も介護職員と協力しながら、新入職員に対し医務研修を行い、看護職全員で育成に取り組みたい。接遇に力を入れ、継続していくよう努める。楽しい職場作りが大切なので本年も継続して努力する。

I. 健康管理

- (1) 身体的、精神的疾患のある入居者様に対しては、常に健康状態に注意し、疾患の早期発見、予防等の健康保持の為の適切な措置をとるよう努める。
- (2) 受診や往診がスムーズに行えるように努める。また、医師と連携を図り、異常の早期発見に努めると共に、入院が長引くと刺激が少なく、認知症の早期進行が考えられ、日常生活動作が低下する可能性があるため、日頃から入居者様や家族様とのコミュニケーションを良くし、入院期間が長期にならない様努める。

II. 緊急時の対応

入居時、それぞれの方に看取り介護のアンケートにご記入頂き、緊急時どのように対応したら良いか検討する。主治医の協力の下、指導を仰ぎ、入居者様や家族様のご希望に沿うよう努める。日頃より緊急時における対応を話し合い、疾病のある入居者様で予測できる可能性のある方は介護職に伝えるよう努める。部署研修で誤嚥・窒息時の対応や、心肺蘇生法の研修が毎年必須として組まれているので、研修担当に当たった時はしっかり支援指導行いたい。

III. 安全対策

入居者様の疾病の進行や予後が分かる場合は、予め予測し、危険の回避に努め提案していく。今年もヒヤリハットを継続していく。

IV. 水分補給について

1 日 1,500ml 以上を原則目標としている。疾病で、脱水症、脳梗塞、認知症、便秘症、尿路感染症等、さまざまな疾患を予防し、良い成果が得られているので、継続する。しかし、入居者様によっては、心不全、胸水、間質性肺炎を繰り返される方、誤嚥性肺炎を繰り返される方、腎不全等の持病がある方には、主治医に相談し、適切な 1 日の水分摂取量を指示して頂くよう努め、症状の悪化に繋がらない様、努める。

V. 虐待防止

施設長自ら虐待防止に力を入れ、接遇委員中心に部署研修がなされているので、看護師も積極的に参加する。業務の多忙さで言葉使いが粗雑になり易い。一呼吸おいて言葉を発するよう努める。

VI. 機能訓練

加算はもらえないが、生活リハビリは必要である。リハビリ病院でも生活リハビリを取り入れている所もある。本年もトイレや食卓に向かう時に、歩ける方は介助しながらでも、少しでも歩いて頂くようお願いする。また、車椅子から椅子に移動して頂く。日常動作で出来る事はなるべくして頂く様努める。介護職が行えるようサポートしリハビリが充実していくよう見守る。

VII. 業務の充実とレベル向上

- (1) 看護師として専門性を高め入居者様にサービスを提供していけるよう努める。
- (2) 看護師間で話しやすい雰囲気作りをし、意見があればその都度話し合い、良い意見が出れば、ポジティブに取り入れる様、努める。
- (3) 各職種間で連絡を密にし、スムーズに業務が行えるよう努める。
- (4) 内外の研修に参加し意識改革とレベル向上に努め、参加者は伝達し、資料提供し、各自が資料を読み、学ぶよう努める。
- (5) 人材育成に努める。
 - ①新入介護職員に看護師が医務研修を行い、日々の業務で育成していく。
 - ②内部研修に看護師も加わり、心肺蘇生法、誤嚥・窒息時の対応、吸引や吸引ノズルにおける注意事項、バルンの管理の注意点等、研修委員が組んだ研修で、担当になれば、担当者がレジメを作り、研修出来るよう努める。

VIII. ターミナルケア

ターミナルケアは、入居者様個々のケースにより異なるので、入居者様と家族様が望まれる事を予めお聞きするよう努める。平成 25 年度より胃瘻はお受けできなくなったので、希望されている入居者様や家族様には、予めお話しするよう努める。当ケアハウスで看取りを希望される方は、看取りの同意書を頂き、業務がスムーズに行えるよう努める。

IX. 感染対策

冬季などにはどの感染症が流行しているか、地域社会の情報をキャッチするよう努め、保健所や、主治医や施設長から得た情報を下に、感染の疑いが起これば、感染マニュアルや、感染対策会議から来る情報に従い、職員全員が共に協力し感染拡大しないよう努める。

①インフルエンザ予防接種

毎年施行している。本年も入居者様や職員共に推奨していく。

②成人用肺炎球菌ワクチンの定期接種

平成 26 年度より、自治体が推奨しているので希望されている方は施行したが、本年度も施行するよう努める。

③結核定期健診

入居者様全員受けて頂き、保健所に報告予定。

④その他の感染症が発症した時は、情報を共有し、話し合い、決定し、感染拡大防止に努める。

X. 口腔ケア

歯科医師の検診と歯科衛生士による口腔ケアの指導の継続。

X I. 看護職員の健康管理

お互い健康に留意し健康維持、増進に努める。

以上

平成 29 年度 サンライフ魚崎（厨房）

事業計画書（案）

今年度は、ささゆり会の経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実現するため、職員の定着・人材育成に重点を置き、食材費の削減にも取り組む。

I. 職員の定着・人材育成

- (1) 今年 1 月に入社した常勤職員及び、3 年未満の非常勤職員には、個人の能力やスピードに合わせた指導を行い、目標を持ってやりがいのもてる職場となるよう取り組む。
 - ① 常勤職員には、半月ごとに育成計画を作成し指導内容を明確にする。
調理場内業務・事務業務を並行して指導することにより、知識の幅を拡げ責任を以って行動できる職員へと育成する。また、計画に沿って実施・見直しを繰り返し行い、育成計画の仕組みを構築する。
 - ② 新しい業務を覚える前には、栄養士がマニュアルに沿って、丁寧な説明を行い、不安の軽減を図る。また、マニュアルのない業務のマニュアル作成にも取り組み指導方法のばらつきを軽減する。
 - ③ 2 年未満の職員には、半年に 1 回は面談を実施し、悩みを相談し、アドバイスが出来る場とする。
 - ④ それぞれの食事形態・食材の種類に応じた切り方や調理方法の統一を図る。
- (2) 毎日、業務の担当を決め、個々の役割を明確化することで、自ら考え工夫し、業務の効率化につなげていく。また、周囲の状況を見極め、お互いを助け合うことで信頼関係を築く。
- (3) 厨房職員は比較的年配の非常勤職員も多いため、労働時間の配慮・温度環境なども含め、長期間働きやすい環境を整える。
- (4) 厨房朝礼(月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項)を今年度も継続し、「笑顔と大きな声で挨拶」の定着と、職員同士が声をかけあい協力しあえる雰囲気作りに努める。
- (5) 毎月行っている部署研修の内容を充実させ、厨房で働く上で必要な、衛生管理・感染症・嚥下機能・法令や虐待防止・身体拘束禁止について学ぶだけでなく、先輩・後輩が対話やコミュニケーションの取れる時間を設けることで、良い関係性を築き、日々の業務につなげていく。
- (6) 給食日誌や発注業務など、重複入力や使いにくいと感じている業務に関して、書式の変更やソフトの使えていない機能の見直しをすることで、業務の削減を図る。また、個々の負担とならないよう、栄養士間の業務の分担を行い、「時間外ゼロ」を目指す。

II. 衛生管理の徹底

- (1) 異物混入等の事故防止の為、春季・秋季清掃以外にも2ヶ月に1回は手の届かない所の清掃を行う。また、厨房同様に2ヶ月に1回、ケアハウスのキッチン周辺の見回り・状況把握を行い、必要に応じて清掃を行う。

III. コスト削減対策

- (1) 嚥下力の低下による増粘剤の使用量が増加傾向である為、安価となる商品を見極め・変更し、コスト削減を図る。また、洗剤・消耗品等も上記同様に、随時、検討を行う。
- (2) 水道、ガス、電気について本当に必要な量、時間等を見直し、無駄な使用量の削減に取り組む。
- (3) 旬の食材、その時期に最も安価でしかもおいしい食材の購入に努め、食材費のコスト削減(総食材料費 4%程度削減)に取り組む。その為に、主仕入先との仕入検討会議を2か月に一度程度開催し、双方から提案しあい、安全・良質で、安価な食材確保に取り組む。

IV. 入居者様個々の状態に応じた対応

- (1) ケース記録により入居者様の日々の様子や、体重減少率・食事摂取量等をすばやく把握し、科学的な根拠を基に入居者様個々に応じた的確な対応を行う。
- (2) 2ヶ月に1回の口腔ケアカンファレンス開催時に、介護・看護と連携し食事形態の見直しを行う。また、積極的に栄養士が現場に出向き、多職種と協働し、情報の共有と意見交換を行う。
- (3) ケアハウスのケース会議には積極的に参加し、職員との連携強化、入居者様の状態及びニーズの把握に努める。

V. 食事サービスの充実

- (1) 給食委員会等で、職員との連携強化し、ニーズの把握に努め、食事レクリエーション、おやつレクリエーション、選択食などの内容を充実させ、楽しんでいただけるようなサービスを実施する。
- (2) 毎日の献立から季節の移り変わりが感じられるような献立作成を目指す。
- (3) 統一した調理法・盛り付けが行えるよう、各料理の写真を撮り、調理する方がイメージしやすい資料を作成する。

VI. その他

- (1) 温冷配膳車・冷凍冷蔵庫・食器洗浄機・スチームコンベクション等の大型機器、及び食器の長期使用による劣化への対応が必要である。費用、作業効率等も検討しながら、購入や修理などを行う。
- (2) 業務に支障のない範囲で有給休暇を取得できるよう勤務を調整する。

以上

平成 29 年度 サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業計画書（案）

今年度は利用者様の確保に努めると共に、各ケアマネージャー一人一人が利用者様・サービス提供事業者と誠実に関わることを心がけていく。また、事業者内ではチームとしてケアマネージャー同士が助け合い、切磋琢磨しながら全体のスキルアップが図れる環境の構築に努める。

I. 業務削減目標 20%

- (1) 記録時間削減のためパソコン入力の際に定型文をマスター登録しておき、入力時に時間短縮が行えるようにする。
- (2) 新規・区分変更時、モニタリング等、法令に基づいた手順で行えるようマニュアルを作成することで、手順通りに進められるようにし、作成時・確認作業の軽減を図る。
- (3) 訪問時に滞在時間が長時間になる可能性がある方は、あらかじめ時間設定をしておき、限られた時間で中身の濃い情報収集ができるようにしていく。

II. 利用者様獲得・経営基盤の強化

- (1) 魚崎北部あんしんすこやかセンターからの新規支援依頼は原則として受け入れを行う。また、お互いが協力・相談できるよう月 1 回、居宅職員 2 名、魚崎北部あんしんすこやかセンター職員 2 名で意見交換・情報共有する。
- (2) 特定事業所集中減算の要件に該当するサービスについては所定の手続きを確実にいき、居宅介護支援費の減算を回避する。
- (3) 2 ヶ月に 1 回、通所介護・短期入所生活介護、地域包括支援センターの責任者と定期的に会議を行い、各サービスへの利用者様紹介、他事業所の情報を伝える。

III. 地域包括支援センター・サービス提供事業所との連携強化

- (1) 魚崎北部あんしんすこやかセンターの圏域において要介護⇔要支援の支援がスムーズに行えるよう、合同会議を定期的に行う。

	出席者	頻度
責任者会議	地域包括（主任 CM・看護師） 居宅（管理者・CM）	月 1 回
全体会議	地域包括・居宅全職員	3 ヶ月毎

- (2) 書面でのやりとりだけではなく、サービス提供時間に合わせて事業所や利用者様宅を訪問し、利用状況の確認や課題の抽出を行う機会を持つ。
- (3) 支援困難・虐待等のケースについては事業所内で情報を共有し、地域包括支援センターと協力しながら対応を行う。

IV. 法令遵守

- (1) 業務確認表を各ケアマネージャーが毎月作成し、管理者が確認を行う。また、書類に不備がないか確認するため月 1 回ケアプランチェックを定例会議内で行う。
 - ・ 訪問、モニタリング（毎月）
 - ・ 支援経過記録の作成
 - ・ サービス担当者会議の開催（新規作成時・更新時・区分変更時）
 - ・ 居宅サービス計画書の作成、説明、同意、交付
- (2) 基準や条例等に追加や変更があれば定例会議や市への問い合わせ等で確認し、共通理解を図る。

V. 職員の資質向上・魅力ある職場環境の構築

- (1) 事業所内での連携を強化するために定例会議を開催し、利用者様の情報、課題の共有を図る。また、事例検討、勉強会を月 2 回行う。（週 1 回：水曜日）
- (2) 研修や行事へ積極的に参加して各自のスキルアップを図ると共に、文書回覧・定例会議での発表を通じて研修内容の共有を図る。

VI. その他

- (1) 他市町村からの認定調査依頼を積極的に受託する。
- (2) 他部署との連携強化のため積極的に施設行事に参加する。
- (3) 心身の疲労軽減のため有給休暇と公休を併用し、連続休暇の取得を年 2 回は行えるよう業務の調整・協力体制を構築していく。

○ 利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28 年度 実績	71	75	81	80	82	86	89	91	89	84	86	86	1000
H29 年度 目標	86	88	90	92	92	93	94	95	96	97	98	99	1120
差異	15	13	9	12	10	7	5	4	7	13	12	13	120

※H27 年度 2 月及び 3 月は見込み数

○ 収入（居宅介護支援費・介護予防支援業務委託料・認定調査委託料）

（単位：千円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度実績	1,066	1,047	1,216	1,176	1,183	1,213	6,901
H29年度目標	1,182	1,206	1,230	1,254	1,254	1,266	7,392
前年度との差異	116	159	14	78	71	53	491
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度実績	1,302	1,306	1,243	1,123	1,139	1,139	14,153
H29年度目標	1,325	1,337	1,350	1,362	1,375	1,375	15,516
前年度との差異	23	31	107	239	236	236	1,363

※H28年度2月及び3月は見込み額

○ 活動計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点目標	・利用者様確保	・ケアプランチ エック	・利用者様確保	・ケアプランチ エック	・利用者様確保	・研修参加促進
事業所連携	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議
その他	・前年度分書類 整理			・事業所パンフ レット整理		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点目標	・利用者様確保	・ケアプランチ エック	・利用者様確保	・ケアプランチ エック	・利用者様確保	・研修参加促進
事業所連携	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議	・定例会議 ・合同会議 ・短期入所、通 所合同会議	・定例会議 ・合同会議
その他	・上半期分書類 整理			・事業所パンフ レット整理		

以 上

平成 29 年度魚崎高齢者介護支援センター（地域包括支援センター）

魚崎北部あんしんすこやかセンター

事業計画書

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」

「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」

平成 28 年度は地域包括ケアシステム構築の為「地域ケア会議」を計 3 回開催した。24 年度に地域診断を行い、その結果を元に、25 年度には効果的なネットワークの構築ができたので、26、27 年度は認知症サポートネット「お魚の会」で更なる地域との連携を図る事ができた。28 年度は「地域ケア会議」を開き魚崎北部に地域包括ケアシステムを構築できた。29 年度も「地域ケア会議」を 3 回開催予定である。センター内のいつも言っているのは「挨拶を徹底し、個人情報には注意しながら連携を図り、気持ちよく楽しく仕事ができるような職場にしていく」である。

29 年度センターのモットーは「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」である。

I. 高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

虐待の通報があれば、社会福祉士が中心となって情報の収集につとめ、センター内で情報共有、対応の方法を検討する。東灘区役所あんしんすこやか係に報告し、医療機関、デイサービス事業所、ヘルパー事業所、担当のケアマネジャーなどと連携を密にとりながら迅速な対応に努める。また高齢者虐待防止の研修をケアマネジャー向けに行ない、早期発見・早期対応を促していく。地域住民には、折に触れて、「介護、がんばりすぎていませんか」「誰にもいえず悩んでいませんか」「気になるご近所の方はおられませんか」といった声かけをし、相談を促していく。

判断力の低下により金銭管理が難しくなった人を可能なかぎりの社会資源を探りながら根気よく支援していきたい。地域住民向けに成年後見制度や消費者被害についてのセミナーを開催する。地域行事等でも啓発の声掛けを行なっていく。

II. 認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進

魚崎北部 認知症サポートネット『お魚の会』構築

(平成 28 年度は神戸市から 65,333 円委託料あり 29 年度も同様の委託金額見込み)

6 年目を迎える認知症サポートネットは 29 年度も年 3 回開催する予定である。

実行委員として積極的に活動できる方を新たに募る。

実行委員としての意識づけをして自立に近づけるよう、センターはバックアップしながら、『お魚の会』を運営していく。

29年度は、横屋会館以外の場所でも開催とする。

また高齢者以外の方への働きかけも検討していく。

7月27日「お魚の会」第1回目

11月22日「お魚の会」第2回目

2月16日「お魚の会」第3回目

認知症地域支援推進員として、地域住民や店舗職員等へ認知症への理解を深める事と病院の医師や歯科医師や薬剤師や事業所や地域住民と連携し、認知症の方とその家族が安心して暮らせる町づくりを目指す。

介護予防普及啓発事業の推進（神戸市から80万円の委託料あり）

29年度は、地域全般に広報し横屋会館で開催予定。

28年度年3回開催予定。

5月17日 第1回目

9月20日 第2回目

1月24日 第3回目

Ⅲ. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から12,000円委託料あり。）

地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議を開催していく。

6月28日（水） 第1回目 独居で認知症のある方の地域での見守り。

10月25日（水） 第2回目 認知症の方を見守っていく地域づくりについて。

2月28日（水） 第3回目 魚崎北部地域のこれから

・地域別連絡会（ケアマネ支援）

ケアマネ支援の為の連絡会等、毎月テーマを変えて開催していく。地域包括ケアに向けて29年度の目的はセンター間の連携と地域内居宅事業所ケアマネの勉強会によるレベルアップ等を図って、地域に貢献していけるようにする為である。

「東灘あんしんすこやかセンター」と「医療介護サポートセンター」合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行っていく。

・区主催 東灘区あんしんすこやかセンター連絡会 月1回（第3月曜日）

・区主催 東灘区ケアネットワーク会議 奇数月（第3金曜日）

・ケアマネ支援研修

病院MSWとの連携について 5月24日

口腔内研修 7月

感染症対策 10月

困難事例検討会

12月

障害者サービスと介護保険適用に関する情報交換会

2月

IV. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支えあい推進員の地域での見守りと居場所づくりの推進。

- ・第6期神戸市介護保険事業計画(平成27～29年度)が実施される。健康寿命の延伸をめざした生涯現役社会づくりの推進や介護予防の取り組みを提案している。高齢者のニーズとボランティア等の地域資源とのマッチングにより、多様な主体による生活支援を充実していく。その中で、今年度から始まる地域支援事業への移行として、社協と協議体を作り、再度地域のニーズや課題を救い上げて検討し、「地域支え合い体制」づくりを進めていく。今後は、ますます住民相互による支え合いの仕組みが必要となってくる。
- ・住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を続けていけるように、地域支え合い推進員が中心となり、3職種協力の元、民生委員、友愛ボランティア、マンションの管理人や自治会、婦人会、老人会などと共に連携・協働を図りながらコミュニティづくりを支援していく。又、地域全体でも日中独居の高齢者が増えているので、地域に出かけられるような支援を目指していく。
- ・民生による高齢者見守り調査の実施と推進員による補足調査で高齢者台帳の作成を行い実態把握に努める。住所地ごとの単位見守りの強化を行う。民生・区社協・地域包括と連携を取り情報提供を行う。
- ・「地域見守り活動推進事業」の一環として、神戸市が行う「事業者による高齢者見守り事業」に関する普及・啓発への協力と連携をする。※協力事業者で播州信用金庫、ローソン神戸東支店、佐川急便株式会社、関西電力株式会社、ヤマト運輸株式会社、神戸朝日回(朝日新聞社)、生活協同組合コープこうべ、シューワ株式会社、日新信用金庫の協力が加わる。
- ・神戸市の市民病院群からの退院される対象者に対する安否確認体制の構築に、協力し対象者の実態把握に努めて情報提供を行う。

地域包括の行事

- ・介護リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間最高36万円委託料あり。
介護者を対象にした介護リフレッシュ教室(月の最終水曜日で年4回開催予定)
 - 4月26日 体操
 - 7月26日 ハンドマッサージ
 - 9月27日 フラワーアレンジメント
 - 1月31日 音楽療法
- ・コミュニティサポートグループの育成支援事業
 - 「らくらく体操」の助成金がH27年度までとなり、事業は終了となる。4月から財産区の指定管理業者の株式会社ビケンテクノに移行するが、名前・内容等その

まま引き継いでいただける。参加費が 500 円となった事で参加人数の減少あり。継続して行っていただけるように支援する。

- 「おおぎ映画会」は、昨年自主活動となり 3 年目を迎える。名称は変更で「西青木映画会」となる。引き続き継続して行っていただけるように支援する。
- 「すみれサロン」は、昨年自主活動となり 3 年目を迎える。引き続き継続して行っていただけるように支援する。
- 「お魚サロン」は、昨年自主活動となり 3 年目を迎える。名称は変更で「ぼっぼくらぶ」となる。引き続き継続して行っていただけるように支援する。
- リバーサロンは、コミサポとして 3 年目を迎える。(偶数月の第 2 火曜日で年 6 回開催予定。) 担い手の発掘と育成を行い、引き続き継続できるように支援する。
- ふれあい喫茶は当法人が行うが、引き続き地域の皆様に楽しんで頂けるように、開催をあんしんすこやかセンターが行う。(奇数月の最終土曜日で年 6 回開催予定)

V. 平成 28 年度介護予防目標収入

H28 年度介護予防請求額		月平均	前年比
請求金額 (単位: 円)	作成件数	月平均件数	(単位: 円)
10,911,520	2,232	186	909,293
H29 年度介護予防目標額			
11,977,700	2,500	208	971,041 目標 112%up

神戸市からの委託料

※28 年度 地域ケア会議開催経費、地域支え合い活動推進事業追加

収入	28 年度	29 年度目標	up 率
人件費	13,500,000	13,500,000	
事務経費	750,000	750,000	
介護予防普及	800,000	800,000	
評価事業	60,000	60,000	
地域ケア会議	12,000	12,000	
地域支え合い	4,500,000	4,500,000	
介護予防	10,911,520	11,977,700	
合計	30,533,520	31,599,700	9%UP

支出	28 年度	29 年度目標	up 率
人件費	19,019,000	19,500,000	
事務経費	2,400,000	2,450,000	
事業費	600,000	600,000	

原価償却費	800,000	800,000	
その他	400,000	400,000	
合計	23,219,000	23,750,000	3%UP

あんしんすこやかセンター29年度予定表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地域ケア会議			6/28			
お魚の会				7/27		
元気いきいき講座		5/17				9/20
リフレッシュ教室	4/26		7/26			9/27
リバーサロン	4/11		6/13		8/8	
新 Let' s ゴー体操		5/12		7/14		9/8

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域ケア会議	10/25				2/28	
お魚の会		11/22			2/16	
元気いきいき講座				1/24		
リフレッシュ教室				1/31		
リバーサロン	10/10		12/12		2/13	
新 Let' s ゴー体操		11/10		1/12		3/9

① 自部門に係る法令集及び介護報酬の解釈通知ファイル

介護予防支援 430 単位 初回加算 300 単位

② 必要かつ十分な作成済み資料を持参下さい。

日頃から、経過記録へのモニタリング記録はその日または、次の日に入力するようにしている。ただら書くのではなく「ポイントをおさえて」記入。

③法順守のための記録漏れ防止策を報告してください。(定期記入、担当交替、相互チェック、定期又は抜き打ち検査等)

月に1～2回、神戸市巡回派遣員が来て、介護予防のファイルをチェックしている。

その時に記入漏れがあった場合も指摘して頂いているので、防止になっている。

○20%時間削減業務達成計画

① モニタリングの記録はポイントをおさえて簡潔に記録する。

② 訪問時間に工夫。例えば 15 時～ヘルパーサービスであれば、14 時半に訪問する。
そうすれば、良く話しする方も、嫌でも 30 分の訪問ですむ。

③ 研修は、必須研修以外は、なるべく参加しない。

以上